

亘理町下水道施設設置基準

◎排除方式	分流式（雨水・汚水）
◎放流先の状況	放流先の確認、放流先管理者との調整をする（排水路管理者・河川管理者等）
◎下水道管の種類	硬質塩化ビニル管（VU）または鉄筋コンクリート管を標準とする
◎下水道管の接合方法	管頂接合又は階段接合（人孔中心線における下流管と上流管との落差2cm以上とする） ※塩ビ製小型マンホールを除く
◎下水道管の最小管径	雨水管 … φ250mm 汚水管 … φ200mm（流量及び上下流の管径を考慮の上φ150mmも可能とする）
◎下水道管の土被り	町道の最小土被り …… 0.8mとする（その他は道路管理者との協議による） 国道・県道の最小土被り … 道路管理者との協議による
◎下水道管の流速	雨水管 … 流速：0.8m/s～3.0m/s 汚水管 … 流速：0.6m/s～3.0m/s（理想的な流速は1.0m/s～1.8m/s） ※急勾配道路においての下水道管の勾配については下水道管理者と協議をすること
◎下水道管の埋設位置	車線の中央または歩道（国道・県道の場合は道路管理者との協議による）
◎埋設物との離隔	雨水管渠・水道管 …… 30cm以上 国・県施設・その他埋設物 … 各管理者との協議による
◎管渠の基礎	硬質塩化ビニル管 …… 360°改良土または砂基礎（支承角120°） 砂基礎には管下0.1m、管上0.1mを含む ※管径、土被りにより基礎形式は考慮すること リブ付き硬質塩化ビニル管 …… 360°改良土または砂基礎（支承角120°） 砂基礎・砕石基礎には管下0.1m、管上0.1mを含む ※管径、土被りにより基礎形式は考慮すること 鉄筋コンクリート管 …… 360°改良土（支承角120°）、Co固定基礎または砂基礎 基礎の形状については構造計算による ※土質、地耐力、荷重条件、埋設条件等により基礎形状は考慮すること
◎管渠の埋戻し	液状化するおそれがある場合は液状化の判定を行い対策を施す ※下水道施設の耐震対策設計指針と解説 - 2014年版 - 日本下水道協会 参照 ※改良土：一軸圧縮強度50kPa～100kPa
◎管渠の継手	可とう性継手を使用する（耐震性能）
◎人孔の使用区分	管渠の起点及び方向又は勾配が変化する箇所、管渠径等が変化する箇所、段差が生じる箇所、 管渠が会合する箇所に人孔を設置すること 0号マンホール（内径75cm組立式） …… 小規模な排水または管の起点 1号マンホールが設置できない場合（人孔深2.0m未満） 1号マンホール（内径90cm組立式） …… 管の起点及び600mm以下の管の中間点 ならびに内径400mmまでの管の会合点 楕円マンホール（60cm×90cm組立式） … 他の埋設物の制約等から 1号マンホールが設置できない場合 2号マンホール（内径120cm組立式） … 内径900mm以下の管の中間点 及び500mm以下の管の会合点 塩ビ製小型マンホール（内径30cm） … 管の起点及び200mm以下の管の中間点 （人孔深1.5m未満） ※人孔深が2m以上の場合はロック付き転落防止梯子を設置すること ※足掛金物の位置は原則として人孔下流側に取り付けること ※小規模な排水 … 開発区域面積が1000㎡未満 等 ※既設管渠との会合点には、原則として割込みマンホールを設置すること 設置できない場合は、可とう性支管による管接続とし、接続箇所付近に人孔を設置すること また、接続箇所と人孔の間には取付管を設置することはできない
◎0号マンホールの採用	以下の条件をすべて満たす場合は0号マンホールを使用することが可能とする ①起点または中間人孔であり上下流の人孔は1号マンホール以上であること ②管渠が人孔で屈折する場合その角度が15°以内であること ③流入、流出管径が250mm以下であること ④人孔深が2.0m未満であること
◎塩ビ製小型マンホールの採用	以下の条件をすべて満たす場合は塩ビ製小型マンホールを使用することが可能とする ①起点及び中間人孔であり、上下流の人孔は0号マンホール以上であること ③流入、流出管径が200mm以下であること ④人孔深が1.5m未満であること

亘理町下水道施設設置基準

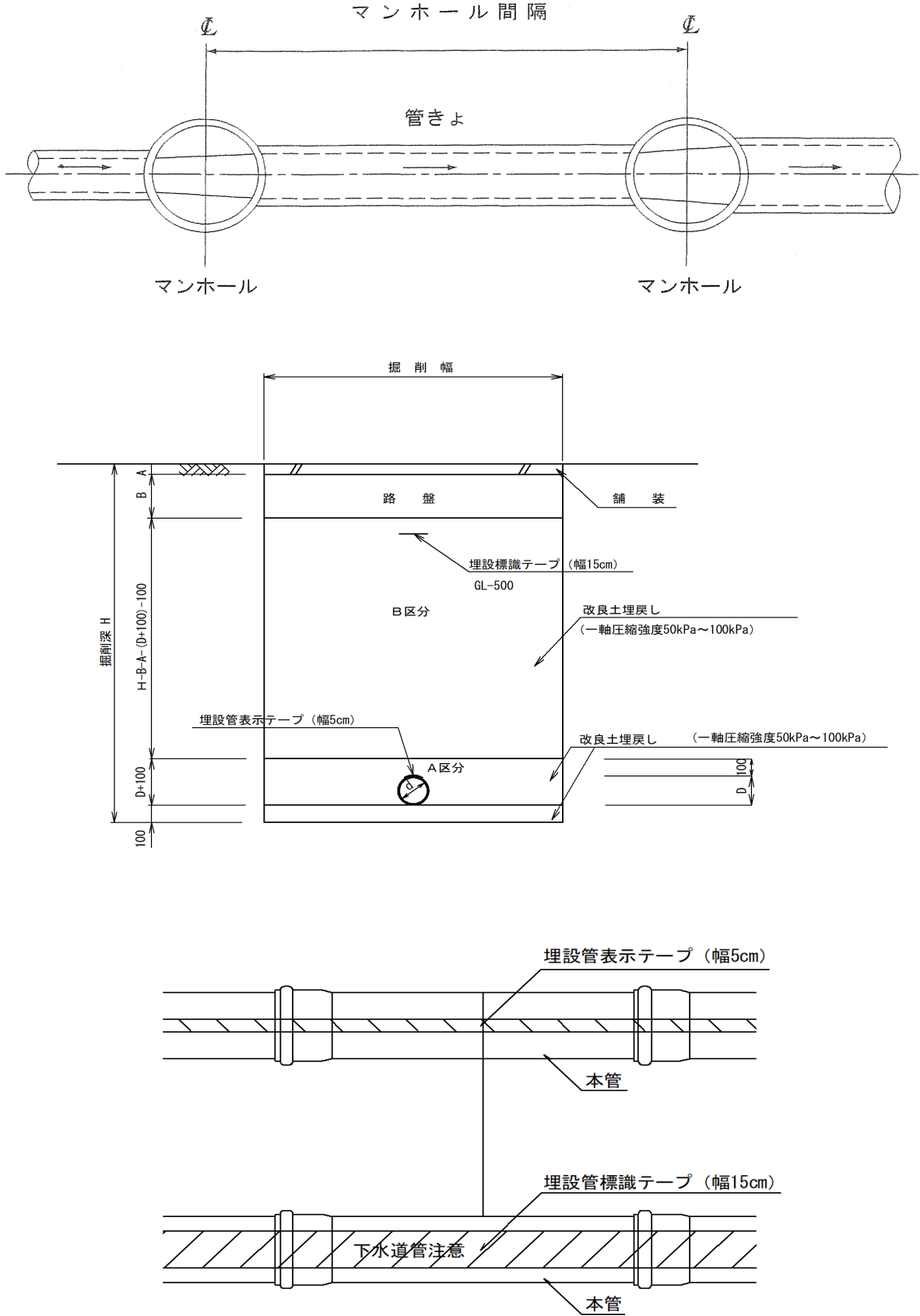
◎人孔の最大間隔	φ600mm以下 … 75m ※塩ビ製小型マンホールの場合は50mとすること
◎人孔の副管	汚水管の段差が60cm以上の場合は副管付き人孔とする（原則として内副管とする） 本管径φ150mm ⇒ φ100mmVU管 本管径φ200mm ⇒ φ150mmVU管 本管径φ250mm ⇒ φ200mmVU管 インバートの高さ … 下流側管径の1/2の高さまで設置する インバートの幅 ……下流側管径と同じ幅とする インバートの勾配 …下流側管と同じ勾配とする ※起点人孔のインバートは人孔内の端部までストレートとすること
◎人孔の蓋[亘理町型]	地区区分 … 亘理町全域：はらこめし（「下水道施設構造等標準図」参照） 構造区分 … 国道・県道・都市計画街路等の必要な箇所及び車線区分がある車道：T－25 上記以外の一般道路及び歩道：T－14 表示区分 … 汚水：【O】 雨水：【U】 幹線：【幹】 枝線：【枝】 【路線番号】 【設置年度】
◎人孔の蓋と 上部側塊との固定	調整リングは原則として1個のみ使用し、高さを調整する（5cm・10cm・15cm） 高さ調整のモルタル充填は無収縮の流動性モルタルを使用する モルタル調整高さは2cm以上7cm未満とする 枠の変形を生じないように変形防止用の部材（球面状調整駒）を使用する
◎人孔と管渠の継手	可とう性継手を使用する（耐震性能）
◎公共柵[亘理町型]	道路境界から1m以内の私有地に設置する （狭あい道路の場合は建築基準法に基づく道路後退線から1m以内の私有地に設置する） 公共柵の深さは1mを標準とする 蓋はφ200の塩化ビニル製蓋または防護鉄蓋（T－8）を使用する ※原則として土地1筆に対して1つ設けること ※造成工事等で公共柵周辺の使用計画が決定していない場合は防護鉄蓋（T－8）を使用すること
◎取付管	取付管の種類 … φ150mmVU管（勾配：10%） 下水道本管がφ150mmの場合：φ125mmVU管（勾配：10%） 取付管の施工 … 下水道本管に対して平面的に直角、断面的に本管斜め上部に支管により接続する （本管の中心線から上方、管頂から60°の間に取付） 下水道本管接続に伴う取付管相互及び人孔との離隔距離は1m以上とする （芯々間ではなく管の外々間） 曲管の使用は原則として2個以内で、連続使用は避ける 曲管の角度は60°以下とする
◎流量の計算	■ 雨水量の算定 … $Q = 1/360 \times C \times I \times A$（m³/s） [合理式] C：流出係数 屋根＝0.90 勾配の急な山地＝0.50 水路・田面＝1.00 （参考値） 空地＝0.20 勾配の緩い山地＝0.30 公園・芝生・広場＝0.25 道路＝0.85 その他の不透面＝0.80 I：降雨強度 $I = 5,000 / (t + 40)$ [50mm/hr：5年確率] I：降雨強度 $I = 5,900 / (t + 40)$ [59mm/hr：10年確率] t：流達時間 $t = t_1 + t_2$（min） t₁：流入時間 7 min） t₂：流下時間L/V（min） L：管渠延長（m） V：管内流速（m/s） A：排水面積（ha） ■ 汚水量の算定（管きよ） … 計画汚水量＝計画人口×計画時間最大汚水量 計画時間最大汚水量 生活＝435ℓ/人日・営業＝75ℓ/人日 変動係数（生活・営業） 日平均：0.75 日最大：1.00 時間最大：1.50 ただし、工場排水は事業形態別に算定すること ■ $q = A \times V$（m³/s） A：流水の断面積（m³） V：流速 $V = 1/n \times R^2/3 \times I^{1/2}$（m/s） n：組度係数 ヒューム管・陶管＝0.013 塩化ビニル管＝0.010 R：径深 $R = A/P$（m） P：流水の潤辺長（m） I：勾配
◎管渠断面の算定	汚水管の管渠断面は計画汚水量に余裕率を乗じて算定する φ700mm未満：計画汚水量×2.0（余裕率：計画汚水量の100%） 雨水管の管渠断面は下記のとおりとする 円形管：満管流量 開渠：8割水深かつ0.2H（H：深さ）以上の余裕高 暗渠：9割水深 （0.2H>0.60mの場合：0.6m）

管布設工(1)

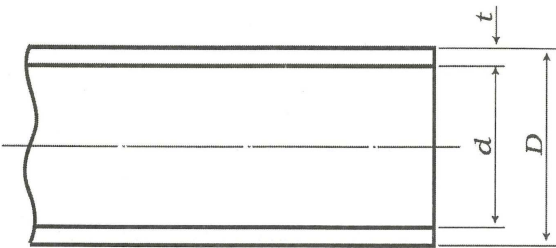
特記:使用管種の寸法値は、下表の下水道協会規格値(JSWAS)を参照すること。

表 日本下水道協会規格 管種 一覧表 (JSWAS規格)

名 称	発 行 年
下水道用鉄筋コンクリート管 (A-1) -2011- 呼び径 150~3000	2011年
下水道推進工法用鉄筋コンクリート管 (A-2) -2018- 呼び径800~3000	2018年
シールド工事用標準セグメント (A-3, 4) -2001-	2001年
下水道小口径管推進工法用鉄筋コンクリート管 (A-6) -2000- 呼び径 200~700	2003年
下水道ミニシールド工法用鉄筋コンクリートセグメント (A-7)-2005- 呼び径 900~2000	2005年
下水道推進工法用ガラス繊維鉄筋コンクリート管 (A-8) -2013- 呼び径 800~3000	2013年
下水道用台付鉄筋コンクリート管 (A-9)-2006- 呼び径 250~1200	2006年
下水道用鉄筋コンクリート製ボックスカルバート (A-12) -2012-	2012年
下水道用プレストレストコンクリート製ボックスカルバート (A-13) -2012-	2012年
下水道用ダクトイル鋳鉄管(G-1)-2016	2016年
下水道用推進工法用ダクトイル鋳鉄管(G-2)-2016	2016年
下水道用硬質塩化ビニル管 (K-1) -2010-	2010年
下水道用強化プラスチック複合管 (K-2) -2017-呼び径 200~3000	2017年
下水道推進工法用硬質塩化ビニル管 (K-6) -2009-呼び径 150~450	2009年
下水道用レジンコンクリート管 (K-11) -1998-呼び径 150~600	2000年
下水道推進工法用レジンコンクリート管 (K-12) -2016-	2016年
下水道用リブ付硬質塩化ビニル管 (K-13) -2003-呼び径 150~450	2003年
下水道用ポリエチレン管 (K-14) -2018-	2018年
下水道用リブ付ポリエチレン管 (K-15) -2014-	2014年
下水道内挿用強化プラスチック複合管 (K-16) -2013-呼び径 600~3000	2013年



下水道用硬質塩化ビニル管(JSWAS K-1)



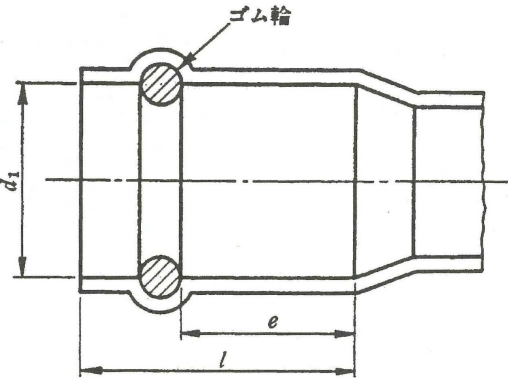
呼び径	外 径 D		厚 さ t		参 考	
	基準寸法	平均外径の 許容差	最小	許容差	内径 d	1 m 当りの 質量 (kg)
75	89.0	± 0.3	2.7	+0.6	83.0	1.159
100	114.0	± 0.4	3.1	+0.8	107.0	1.737
125	140.0	± 0.5	4.1	+0.8	131.0	2.739
150	165.0	± 0.5	5.1	+0.8	154.0	3.941
200	216.0	± 0.7	6.5	+1.0	202.0	6.572
250	267.0	± 0.9	7.8	+1.2	250.2	9.758
300	318.0	± 1.0	9.2	+1.4	298.2	13.701
350	370.0	± 1.2	10.5	+1.4	347.6	18.051
400	420.0	± 1.3	11.8	+1.6	394.8	23.059
450	470.0	± 1.5	13.2	+1.8	441.8	28.875
500	520.0	± 1.6	14.6	+2.0	488.8	35.346
600	630.0	± 3.2	17.8	+2.8	591.6	52.679

備考 本表は、JIS K 6741 の VU (呼び径 75～600) と同一である。

注 1. 平均外径の許容差とは、任意断面における直角 2 方向以上の外径測定値の平均値 (平均外径) と基準寸法との差をいう。

2. 表中 1 m 当りの質量は、密度 1.43 g/cm^3 で算出したものである。

3. 内径は、管の厚さを t (最小) + $\frac{\text{許容差}}{9}$ として算出したものである。



(単位:mm)			
呼 び 径	受口内径 d_1 (最小)	接合長さ e (最小)	受口長さ l (最大)
100	114.5	42	145
125	140.6	44	155
150	165.7	53	165
200	216.9	54	185
250	268.1	59	205
300	319.3	62	225
350	371.5	67	240
400	421.7	72	260
450	471.9	77	285
500	522.1	82	305
600	633.8	93	355

注 1. ゴム輪の形状及びゴム輪周辺部の形状については、規定しない。

2. 受口内径 d_1 は、直角 2 方向以上の内径測定値の平均値とする。

下水道用鉄筋コンクリート管(JSWAS A-1)

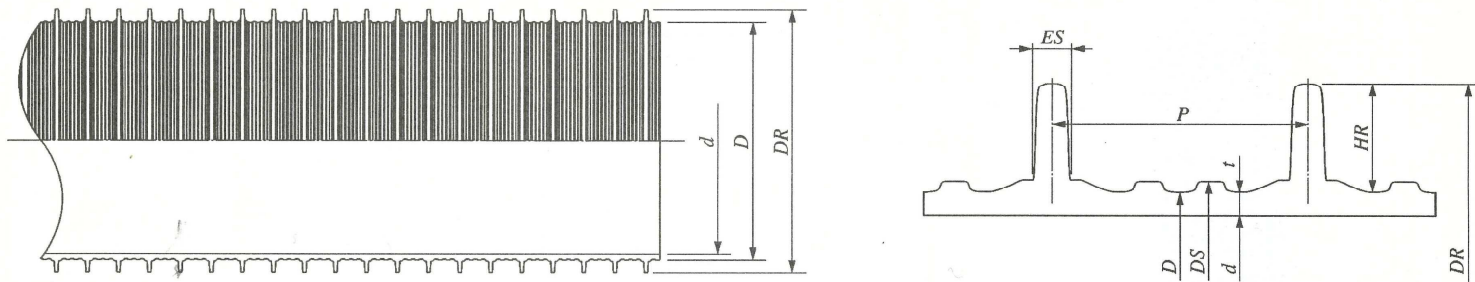
(単位:mm)

呼 び 径	内 径 D	D_1	D_2	D_3	D_4	厚 さ T	l_1	l_2	l_3	l_4	l_5	有 効 長 L	
150	150 ± 3	210 ± 2	206	194 ± 2	262	26^{+3}_{-2}	65	90 ± 5	32 ± 4	115	50	$2\,000^{+10}_{-5}$	
200	200 ± 3	262 ± 2	258	246 ± 2	316	27^{+3}_{-2}					55		
250	250 ± 3	314 ± 2	310	298 ± 2	370	28^{+3}_{-2}					60		
300	300 ± 4	368 ± 2	364	350 ± 2	424	30^{+4}_{-2}					65		
350	350 ± 4	422 ± 2	418	404 ± 2	482	32^{+4}_{-2}	70	95 ± 5	36 ± 4	125	70	$2\,430^{+10}_{-5}$	
400	400 ± 4	478 ± 2	474	460 ± 2	544	35^{+4}_{-2}					75		
450	450 ± 4	534 ± 2	530	516 ± 2	606	38^{+4}_{-2}					85		
500	500 ± 4	592 ± 2	588	574 ± 2	672	42^{+4}_{-2}					100		
600	600 ± 4	708 ± 2	704	690 ± 2	804	50^{+4}_{-2}	75	100 ± 5	40 ± 5	135	100	$2\,430^{+10}_{-5}$	
700	700 ± 4	824^{+3}_{-2}	820	802^{+3}_{-2}	936	58^{+4}_{-2}					140		115
800	800 ± 4	940^{+3}_{-2}	936	918^{+3}_{-2}	1 068	66^{+4}_{-2}	80	110 ± 5		150	130		
900	900 ± 4	$1\,058^{+3}_{-2}$	1 054	$1\,036^{+3}_{-2}$	1 204	75^{+4}_{-2}					160		150
1 000	$1\,000 \pm 6$	$1\,172^{+3}_{-2}$	1 168	$1\,150^{+3}_{-2}$	1 332	82^{+6}_{-3}	96	120 ± 5		165	165		
1 100	$1\,100 \pm 6$	$1\,286^{+3}_{-2}$	1 282	$1\,260^{+3}_{-2}$	1 458	88^{+6}_{-3}					175		175
1 200	$1\,200 \pm 6$	$1\,400^{+3}_{-2}$	1 396	$1\,374^{+3}_{-2}$	1 586	95^{+6}_{-3}	104	130 ± 5	42 ± 5	185	190		
1 350	$1\,350 \pm 6$	$1\,566^{+3}_{-2}$	1 562	$1\,540^{+3}_{-2}$	1 768	103^{+6}_{-3}					195		205

注 呼び径 150 及び 200 の管の有効長 (L) は 500mm 又は 1 000mm、呼び径 250～350 の管の有効長 (L) は 1 000mm、呼び径 400～1 350 の管の有効長 (L) は 1 200mm とすることができる。

特記:その他の管材は、各規格ごとの管種の資料を参照のこと。

下水道用リブ付き硬質塩化ビニル管(JSWAS K-13)

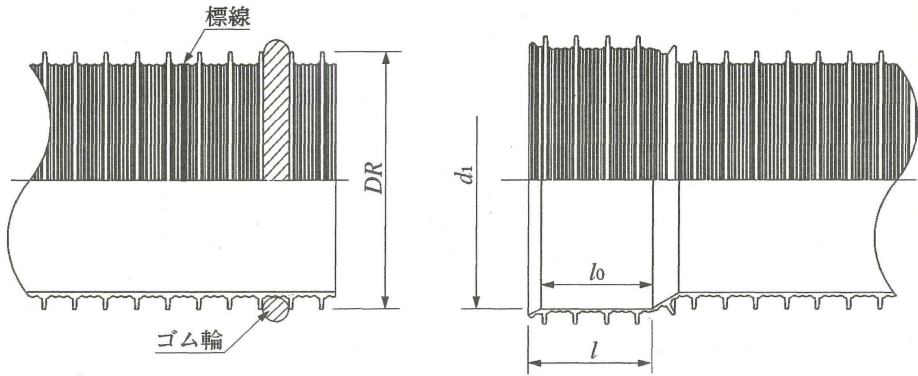


(単位: mm)

呼び径	シール部外径 DS		厚 さ t		リブ間隔 P		標 準 値				参 考	
	基準寸法	許容差	最小	許容差	基準寸法	許容差	外 径 D	リブ外径 DR	リブ高さ HR	リブ幅 ES	近似内径 d	1m 当りの質量(kg)
150	157.5	±0.6	2.4	+0.8 0	19.1	±0.6	155.5	171.0	7.7	3.1	150	3.000
200	207.7	±0.7	2.4		25.4	±0.8	205.5	228.8	11.6	3.6	200	4.350
250	258.5	±0.9	2.7		30.5	±0.9	256.1	286.2	15.0	4.4	250	6.380
300	309.7	±1.0	3.0	+1.2 0	38.1	±1.1	307.1	343.6	18.2	5.4	300	9.020
350	360.2	±1.1	3.1	+1.4 0	38.1	±1.1	357.4	400.6	21.6	5.9	350	12.030
400	411.0	±1.3	3.3		38.1	±1.1	407.6	448.4	20.4	5.8	400	13.860
450	461.8	±1.4	3.5		38.1	±1.1	457.8	502.0	22.1	6.8	450	17.360

- 注1. 外径及びリブ外径は、任意箇所における相互に等間隔な2方向以上の外径測定値及びリブ外径測定値の平均値をいう。
2. 表中1m当りの質量は、密度143 g/cm³で算出したものである。
3. リブ根元部分の詳細形状については、規定しない。

(単位: mm)

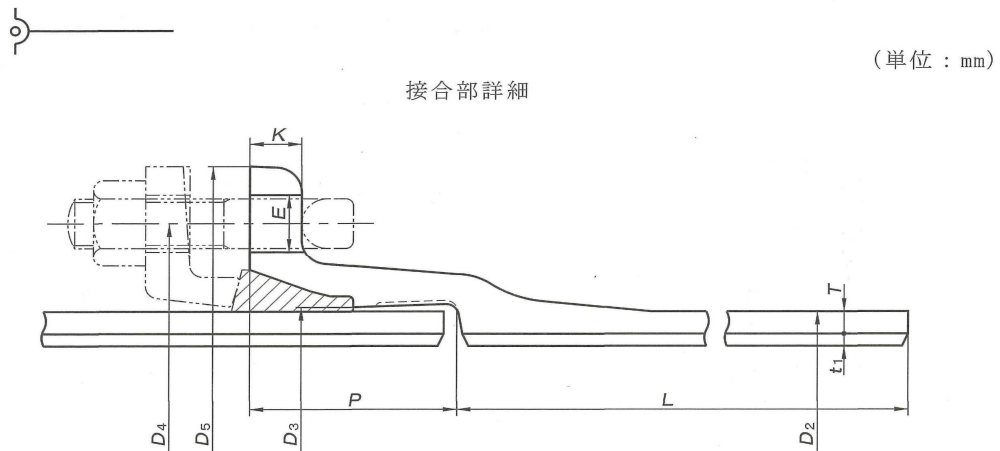
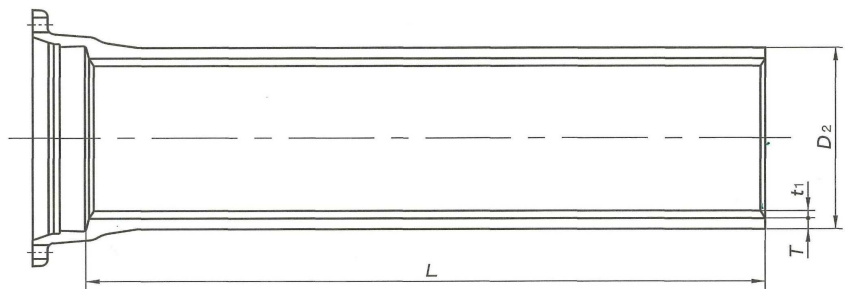


呼び径	差し口部	受 口 部			
	リブ外径 DR (標準値)	受口内径 d ₁ (最小)	平行部長さ l ₀ (最小)	受口長さ l (標準値)	接合長さ e (参考)
150	171.0	171.7	90	100	61.3
200	228.8	229.7	100	115	61.9
250	286.2	287.3	115	140	69.2
300	343.6	344.9	135	170	77.8
350	400.6	402.1	135	170	77.8
400	448.4	450.2	135	170	77.8
450	502.0	504.0	135	170	77.8

- 注1. 受口部内径 d₁は、任意箇所における相互に等間隔な2方向以上の内径測定値の平均値とする。
2. ゴム輪の形状は、規定しない。
3. ゴム輪差し口でのゴム輪取付け位置は、管端より第2番目と第3番目のリブの間とする。
4. 標線位置は、呼び径150の場合は管端より第6番目と第7番目のリブの間、呼び径200以上の場合は第5番目と第6番目のリブの間とする。
5. 接合長さ eは、平行部長さ l₀(最小) - (1.5×リブ間隔 P) として算出したものである。

特記:その他の管材は、各規格ごとの管種の資料を参照のこと。

下水道用ダクタイトル鋳鉄管(JSWAS G-1)



(単位：mm)

呼び径	管 厚					ライニング厚	外径		各 部 寸 法							ボルト の数	有効長
D	1種管 (D1)	2種管 (D2)	3種管 (D3)	4種管 (D4)	5種管 (D5)	t ₁	D ₂	D ₃	D ₄	D ₅	E	P	K				
75	7.5	—	6.0	—	—	4	93.0	96.5	159	197	19	80	18			4	4 000
100	〃	—	〃	—	—	〃	118.0	121.5	186	232	23	〃	19	〃	〃		
150	〃	—	〃	—	—	〃	169.0	172.5	241	287	〃	〃	20	6	5 000		
200	〃	—	〃	—	—	〃	220.0	223.5	292	338	〃	〃	21	〃	〃		
250	7.5	—	6.0	—	—	4	271.6	275.1	348	394	23	80	22	8	5 000		
300	〃	—	6.5	—	—	6	322.8	326.8	399	445	〃	110	23	〃	6 000		
350	〃	—	〃	—	—	〃	374.0	378.0	458	504	〃	〃	24	10	〃		
400	8.5	7.5	7.0	—	—	〃	425.6	429.6	512	558	〃	〃	25	12	〃		
450	9.0	8.0	7.5	—	—	6	476.8	480.8	567	613	23	110	26	12	6 000		
500	9.5	8.5	8.0	—	—	〃	528.0	532.0	618	664	〃	〃	27	14	〃		
600	11.0	10.0	9.0	8.5	7.5	〃	630.8	634.8	725	771	〃	〃	28	〃	〃		
700	12.0	11.0	10.0	9.0	8.0	8	733.0	738.0	839	893	27	120	29	16	〃		
800	13.5	12.0	11.0	10.0	9.0	8	836.0	841.0	942	996	27	120	30	20	6 000		
900	15.0	13.0	12.0	11.0	9.5	〃	939.0	944.0	1 052	1 118	33	〃	31	〃	〃		
1 000	16.5	14.5	13.0	12.0	10.5	10	1 041.0	1 047.0	1 160	1 226	〃	130	32	〃	〃		
1 100	18.0	15.5	14.0	13.0	11.0	〃	1 144.0	1 150.0	1 266	1 332	〃	〃	34	24	〃		
1 200	19.5	17.0	15.0	13.5	11.5	10	1 246.0	1 253.0	1 372	1 438	33	130	36	28	6 000		
1 350	21.5	18.5	16.5	15.0	12.5	12	1 400.0	1 407.0	1 536	1 602	〃	〃	38	〃	〃		
1 500	23.5	20.5	18.0	16.5	14.0	〃	1 554.0	1 561.0	1 700	1 766	〃	〃	40	〃	〃		
1 600	25.0	22.0	19.0	17.5	14.5	15	1 650.0	1 658.0	1 790	1 856	〃	160	〃	30	4 000 5 000		
1 650	25.5	22.5	19.5	18.0	15.0	15	1 701.0	1 709.0	1 844	1 910	33	165	42	30	4 000 5 000		
1 800	28.0	24.0	21.0	19.5	16.0	〃	1 848.0	1 856.0	1 996	2 062	〃	170	44	34	4 000 5 000		
2 000	30.5	26.5	23.5	21.0	18.0	〃	2 061.0	2 069.0	2 216	2 282	〃	180	46	36	4 000 5 000		
2 100	32.0	28.0	24.5	22.0	18.5	〃	2 164.0	2 172.0	2 322	2 388	〃	185	48	38	4 000 5 000		
2 200	33.5	29.0	25.5	23.0	19.5	15	2 280.0	2 288.0	2 441	2 507	33	190	49	40	4 000 5 000		
2 400	36.5	31.5	27.5	25.0	21.0	〃	2 458.0	2 466.0	2 626	2 692	〃	200	52	44	4 000		
2 600	39.5	34.0	29.5	27.0	23.0	〃	2 684.0	2 692.0	2 862	2 928	〃	230	55	48	〃		

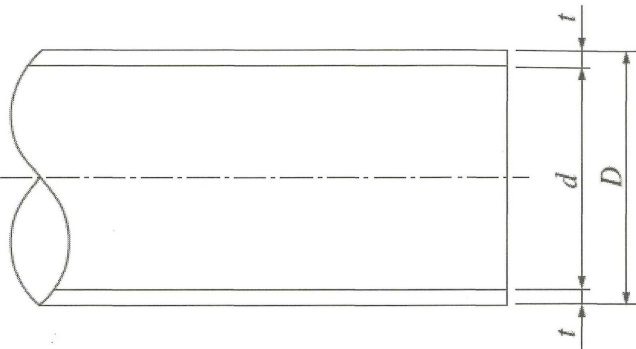
注 1. 受口突部及び直部 1m の参考質量は、有効数字に丸めたので、その総和である 1 本当たりの参
2. 受口内面の形状は、破線の形状でもよい。

受口 突部	参 考 質 量 (kg)											呼び径 D	
	直 部 1 m						1 本 当 た り						
	1 種管 (D1)	2 種管 (D2)	3 種管 (D3)	4 種管 (D4)	5 種管 (D5)	ライニング*	1 種管 (D1)	2 種管 (D2)	3 種管 (D3)	4 種管 (D4)	5 種管 (D5)	ライニング*	
5.15	14.40	—	11.73	—	—	2.23	62.7	—	52.1	—	—	8.93	75
6.68	18.62	—	15.09	—	—	2.99	81.2	—	67.0	—	—	11.9	100
9.64	27.21	—	21.97	—	—	4.52	146	—	119	—	—	22.6	150
12.5	35.80	—	28.84	—	—	6.06	192	—	157	—	—	30.3	200
15.6	44.49	—	35.80	—	—	7.62	238	—	195	—	—	38.1	250
24.0	53.12	—	46.18	—	—	13.65	343	—	301	—	—	81.9	300
28.9	61.74	—	53.66	—	—	15.97	399	—	351	—	—	95.8	350
34.5	79.64	70.44	65.82	—	—	18.21	512	457	429	—	—	109	400
39.5	94.57	84.24	79.06	—	—	20.48	607	545	514	—	—	123	450
45.7	110.64	99.19	93.44	—	—	22.76	710	641	606	—	—	137	500
57.5	153.14	139.45	125.70	118.82	105.01	27.27	976	894	812	770	688	164	600
75.0	194.35	178.40	162.40	146.37	130.28	42.28	1 240	1 150	1 050	953	857	254	700
90.7	249.42	222.11	203.85	185.54	167.19	48.32	1 590	1 420	1 310	1 200	1 090	290	800
112	311.33	270.40	249.87	229.30	198.35	54.35	1 980	1 730	1 610	1 490	1 300	326	900
140	379.71	334.34	300.19	277.37	243.05	75.25	2 420	2 150	1 940	1 800	1 600	452	1 000
163	455.27	392.91	355.36	330.27	279.95	82.79	2 890	2 520	2 300	2 140	1 840	497	1 100
187	537.23	469.31	414.77	373.75	318.89	90.25	3 410	3 000	2 680	2 430	2 100	542	1 200
232	665.74	574.09	512.77	466.66	389.58	121.69	4 230	3 680	3 310	3 030	2 570	730	1 350
280	807.90	706.15	621.04	569.84	484.29	135.26	5 130	4 520	4 010	3 700	3 190	812	1 500
326	912.54	804.51	696.09	641.72	532.69	179.26	3 980 4 890	3 540 4 350	3 110 3 810	2 890 3 530	2 460 2 990	717 896	1 600
360	959.71	848.32	736.53	680.48	568.08	184.91	4 200 5 160	3 750 4 600	3 310 4 040	3 080 3 760	2 630 3 200	740 925	1 650
427	1 144.69	983.32	861.82	800.92	658.42	200.97	5 010 6 150	4 360 5 340	3 870 4 740	3 630 4 430	3 060 3 720	804 1 000	1 800
534	1 391.10	1 211.05	1 075.53	962.29	826.03	224.50	6 100 7 490	5 380 6 590	4 840 5 910	4 380 5 350	3 840 4 660	898 1 120	2 000
597	1 532.48	1 343.43	1 177.43	1 058.52	891.57	235.81	6 730 8 260	5 970 7 310	5 310 6 480	4 830 5 890	4 160 5 050	943 1 180	2 100
659	1 690.47	1 466.33	1 291.36	1 166.05	990.14	248.59	7 420 9 110	6 520 7 990	5 820 7 120	5 320 6 490	4 620 5 610	994 1 240	2 200
803	1 985.34	1 716.91	1 501.36	1 366.28	1 149.56	268.04	8 740	7 670	6 810	6 270	5 400	1 070	2 400
1 001	2 346.38	2 023.86	1 758.98	1 611.43	1 374.77	292.92	10 390	9 100	8 040	7 450	6 500	1 170	2 600

考質量とは必ずしも一致しない。

特記1:その他の管材は、各規格ごとの管種の資料を参照のこと。
特記2:耐震計算の結果より、必要な接手性能を有する接手規格を選定すること。

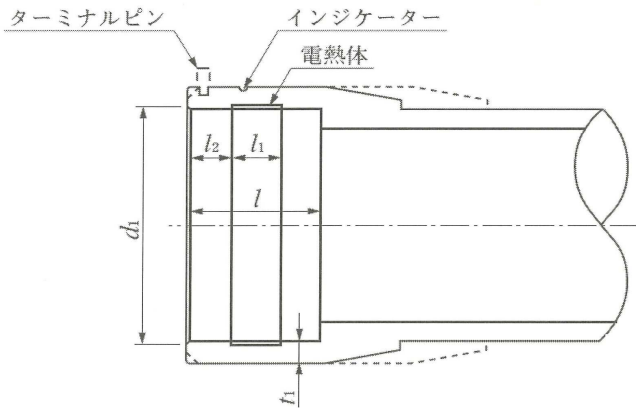
下水道用ポリエチレン管(JSWAS K-14)



(単位：mm)

呼び径	外 径		厚 さ		参 考	
	D	許容差	t	許容差	近似内径 d	質 量 (kg/m)
50-J	60.0	± 0.2	4.4	$+0.6$ 0	50	0.79
50	63.0	$+0.4$ 0	4.7	$+0.6$ 0	53	0.89
75	90.0	$+0.6$ 0	6.7	$+0.9$ 0	76	1.81
100	125.0	$+0.8$ 0	9.2	$+1.1$ 0	105	3.43
150	180.0	$+1.2$ 0	13.3	$+1.5$ 0	152	7.13
200	250.0	$+1.5$ 0	18.4	$+2.1$ 0	211	13.7
250	315.0	$+1.8$ 0	23.2	$+2.5$ 0	266	21.7
300	355.0	$+2.2$ 0	26.1	$+2.9$ 0	300	27.4
350	400.0	$+2.4$ 0	29.4	$+3.1$ 0	338	34.2
400	450.0	$+2.7$ 0	33.1	$+3.5$ 0	380	43.4
450	500.0	$+3.0$ 0	36.8	$+3.8$ 0	423	53.5
500	560.0	$+3.4$ 0	41.2	$+4.3$ 0	473	67.1
550	630.0	$+3.8$ 0	46.3	$+4.8$ 0	533	84.9
600	710.0	$+6.4$ 0	52.2	$+5.4$ 0	600	108.0

- 注 1. 外径 D とは、外径相当長さ以上離れた任意箇所での、相互に等間隔な 2 方向以上の外径測定の平均値、又は円周測定値を円周率 3.142 で除した値をいう。
2. 質量は、管に使用する材料の比重を 0.970 で計算したものである。



(単位：mm)

呼び径	受口内径 (電熱体部)		電熱体部長さ l_1 (最小)	受口寸法 l_2 (最小)	受口長さ l (最大)	受口部厚 t_1 (最小)
	d_1	許容差				
75	90.7	$+0.8$ 0	13	5	78	8.0
100	125.9	$+0.9$ 0	16	5	86	11.0
150	181.4	$+1.0$ 0	21	5	108	15.8
200	251.7	$+1.3$ 0	33	5	140	22.0
250	316.8	$+1.6$ 0	39	5	173	27.6

- 注 1. 受口内径 d_1 は、直角 2 方向以上の内径 (電熱体部) 測定の前平均値とする。
2. 継手形状は参考であって、破線の受口形状とすることもできる。但し、内面に段差を生じないようにすること。

特記:その他の管材は、各規格ごとの管種の資料を参照のこと。

管基礎工(1)

一般的な基礎の種類と適用管種

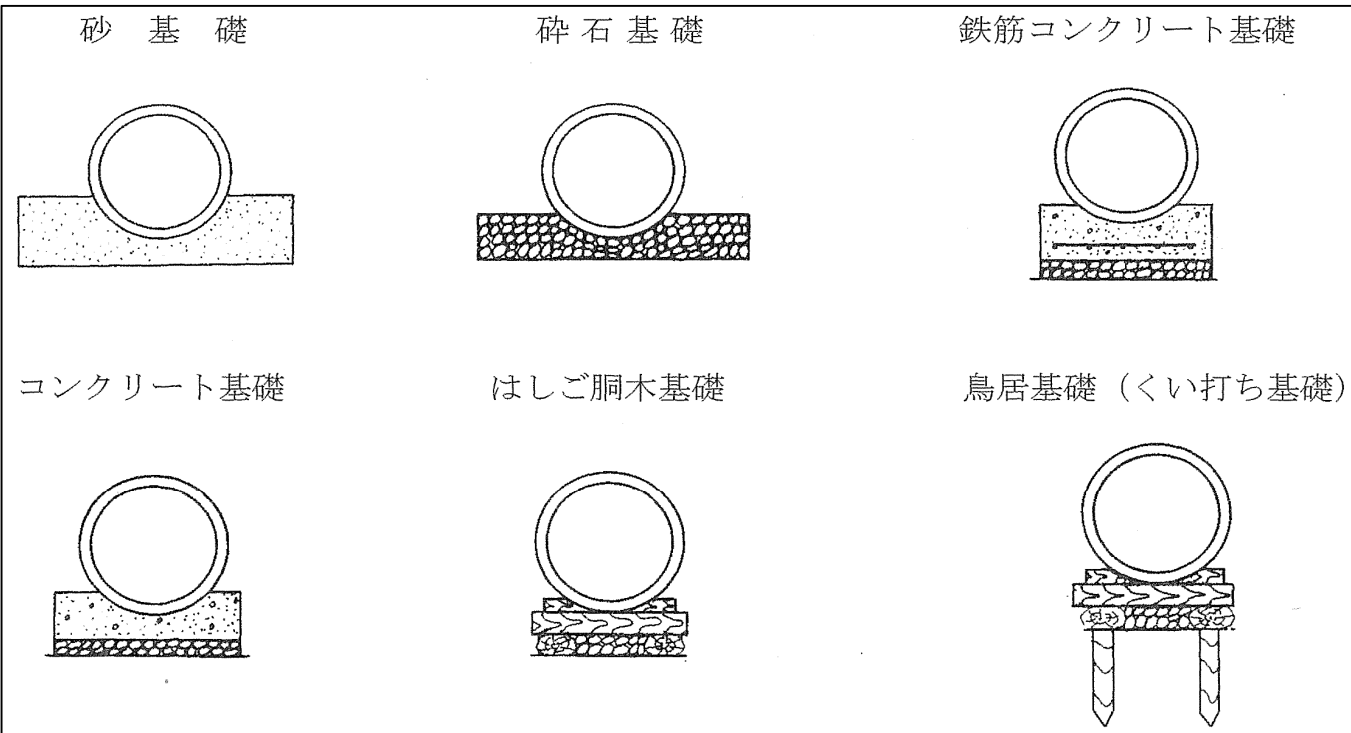


図 剛性管きよの基礎の種類

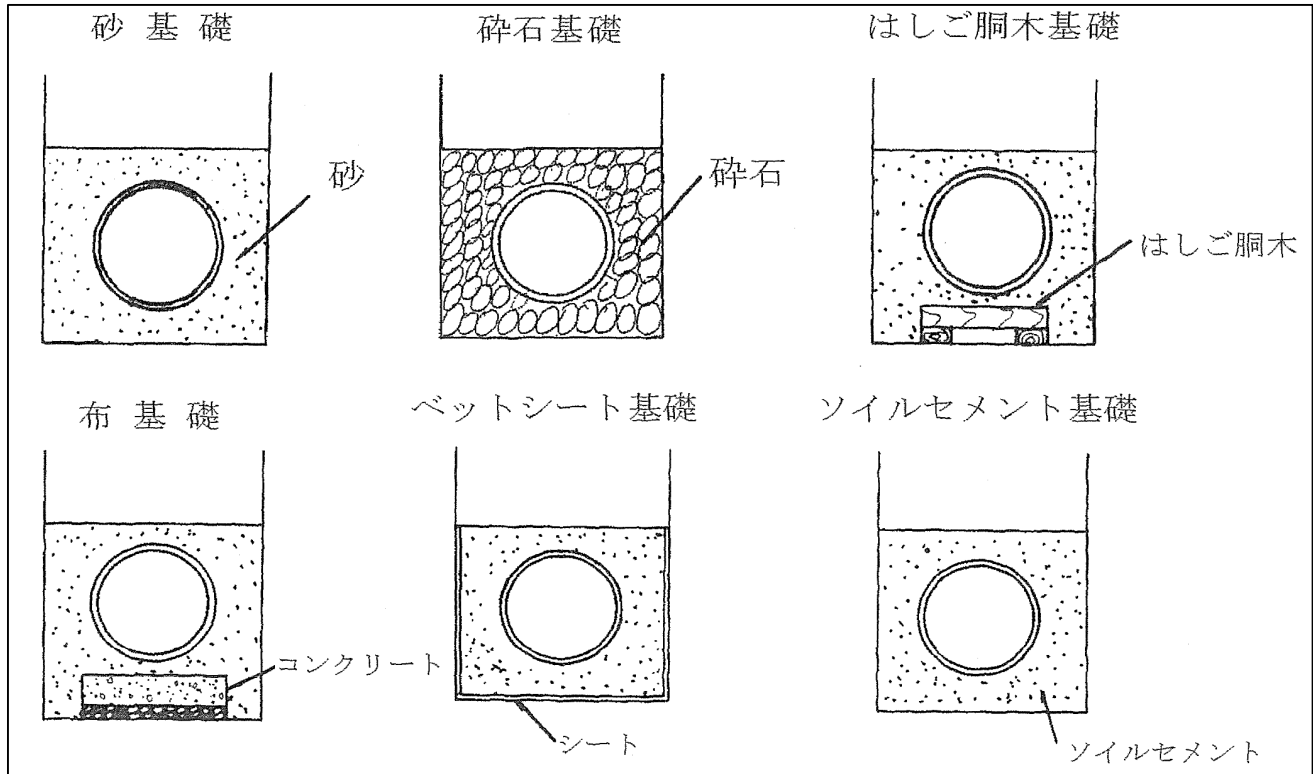


図 可とう性管きよの基礎の種類

主な剛性管きよの種類

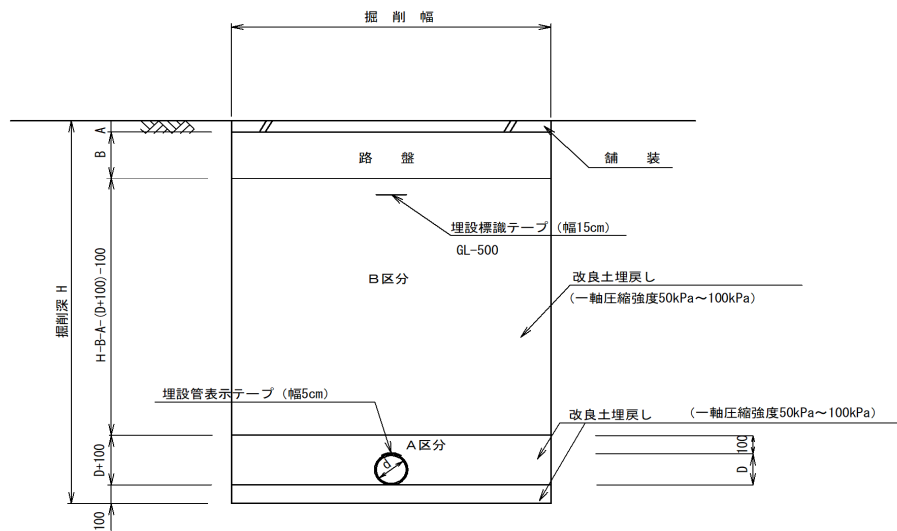
①鉄筋コンクリート管	【開削工法, 円形】 JSWAS A-1 (呼び径150~3000) JSWAS A-9 (呼び径250~1200) 【推進工法, 円形】 JSWAS A-2 (呼び径800~3000) JSWAS A-6 (呼び径200~700) JSWAS A-8 (呼び径800~3000)
②鉄筋コンクリート製ボックスカルバート	【開削用, ボックスカルバート】 JSWAS A-12 (呼び径600×600~3500×2500)
③レジンコンクリート管	【開削工法, 円形】 JSWAS K-11 (呼び径150~600) 【推進工法用, 円形】 JSWAS K-12 (円形200~1650)
④ダクタイル鋳鉄管	【開削工法用, 円形】 JSWAS G-1 (呼び径75~2600) JSWAS G-2 (呼び径250~2600)

主な可とう性管きよの種類

①硬質塩化ビニル管	【開削工法, 円形】 JSWAS K-1 (呼び径75~600) JSWAS K-13 (呼び径150~450) 【推進工法, 円形】 JSWAS K-6 (呼び径150~450)
②強化プラスチック複合管	【開削工法, 円形】 JSWAS K-2 (呼び径200~3000) 【内挿用, 円形】 JSWAS K-16 (呼び径600~3000)
③ポリエチレン管	【開削工法, 円形】 JSWAS K-14 (呼び径50~300) JSWAS K-15 (呼び径300~1000)

特記: 圧送管路については、基礎の有無を含めて別途検討を行う。

管基礎工(2)



改良土基礎工（硬質塩化ビニル管JAWAS K-1）

寸法表 単位（mm）

種 類	呼び径	管 厚	外 径	基礎高	A区分埋戻高
	D	t	D1	h	H
硬質塩化ビニル管	150	7.5	165	100	365
	200	8.0	216	100	416
	250	8.5	267	100	467
	300	9.0	318	100	518
	350	10.0	370	100	570
	400	10.0	420	100	620
	450	10.0	470	100	670
	500	10.0	520	100	720
	600	15.0	630	100	830

改良土基礎工（リブ付き硬質塩化ビニル管JSWAS K-13）

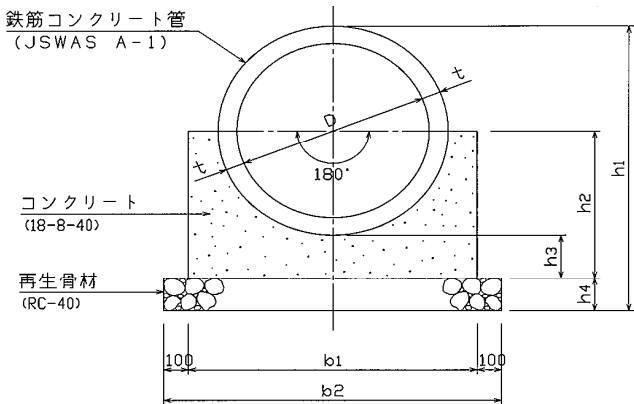
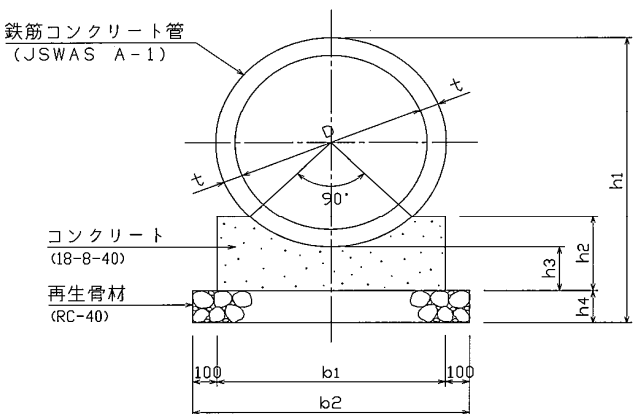
寸法表 単位（mm）

種 類	呼び径	管 厚	外 径	基礎高	A区分埋戻高
	D	t	D1	h	H
硬質塩化リブ付きビニル管	150	2.8	156	100	356
	200	2.8	206	100	406
	250	3.1	256	100	456
	300	3.6	307	100	507
	350	3.7	357	100	557
	400	3.8	408	100	608
	450	3.9	458	100	658

改良土基礎工（鉄筋コンクリート管JAWAS A-1）

単位（mm）

管 種	管 径	管 厚	管外径	基礎高	A区分埋戻高
	D	t	D1	h	H
B 型	200	27	254	100	454
	250	28	306	100	506
	300	30	360	100	560
	350	32	414	100	614
	400	35	470	100	670
	450	38	526	100	726
	500	42	584	150	834



コンクリート90° 固定基礎（鉄筋コンクリート管JSWAS A-1）

管 種	記 号	寸 法 表								材 料 表 (10m当たり)			
		D	t	b 1	b 2	h 1	h 2	h 3	h 4	コンクリート (m3)	型 枠 (m2)	基礎材 (m2)	管本数 (本)
B形管	P1-RC-D200	200	27	400	600	504	140	100	150	0.509	2.800	6.000	5.0
	P1-RC-D250	250	28	450	650	556	150	100	150	0.597	3.000	6.500	5.0
	P1-RC-D300	300	30	500	700	610	160	100	150	0.688	3.200	7.000	5.0
	P1-RC-D350	350	32	550	750	664	170	100	150	0.784	3.400	7.500	5.0
	P1-RC-D400	400	35	550	750	770	220	150	150	1.048	4.400	7.500	4.1
	P1-RC-D450	450	38	600	800	826	230	150	150	1.171	4.600	8.000	4.1
	P1-RC-D500	500	42	650	850	884	240	150	150	1.298	4.800	8.500	4.1

コンクリート120° 固定基礎（鉄筋コンクリート管JSWAS A-1）

管 種	記 号	寸 法 表								材 料 表 (10m当たり)			
		D	t	b 1	b 2	h 1	h 2	h 3	h 4	コンクリート (m3)	型 枠 (m2)	基礎材 (m2)	管本数 (本)
B形管	RC-D200	200	27	450	650	504	170	100	150	0.666	3.400	6.500	5.0
	RC-D250	250	28	500	700	556	180	100	150	0.756	3.600	7.000	5.0
	RC-D300	300	30	550	750	610	190	100	150	0.846	3.800	7.500	5.0
	RC-D350	350	32	600	800	664	210	100	150	0.997	4.200	8.000	5.0
	RC-D400	400	35	650	850	770	270	150	150	1.416	5.400	8.500	4.1
	RC-D450	450	38	700	900	826	290	150	150	1.605	5.800	9.000	4.1
	RC-D500	500	42	750	950	884	300	150	150	1.726	6.000	9.500	4.1

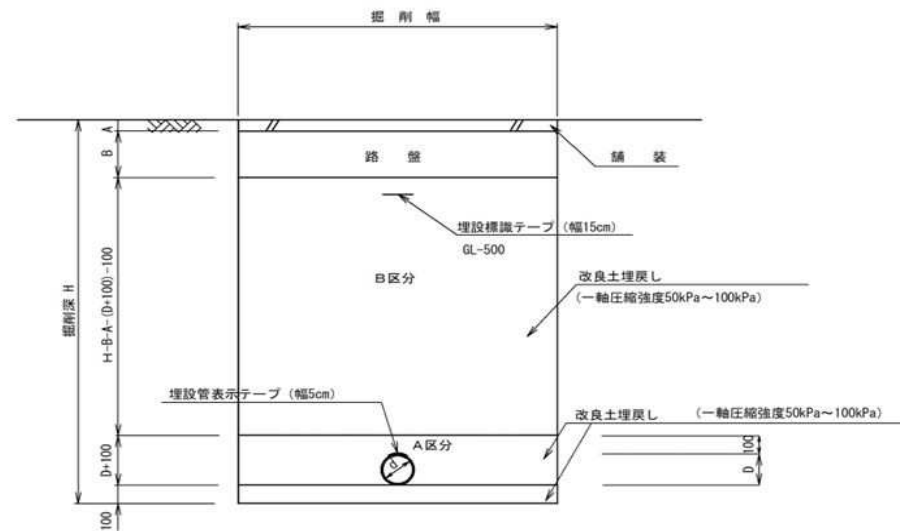
コンクリート180° 固定基礎（鉄筋コンクリート管JSWAS A-1）

管 種	記 号	寸 法 表								材 料 表 (10m当たり)			
		D	t	b 1	b 2	h 1	h 2	h 3	h 4	コンクリート (m3)	型 枠 (m2)	基礎材 (m2)	管本数 (本)
B形管	P2-RC-D200	200	27	500	700	504	230	100	150	0.889	4.600	7.000	5.0
	P2-RC-D250	250	28	550	750	556	260	100	150	1.041	5.200	7.500	5.0
	P2-RC-D300	300	30	600	800	610	280	100	150	1.171	5.600	8.000	5.0
	P2-RC-D350	350	32	650	850	664	310	100	150	1.330	6.200	8.500	5.0
	P2-RC-D400	400	35	700	900	770	390	150	150	1.839	7.800	9.000	4.1
	P2-RC-D450	450	38	750	950	826	420	150	150	2.027	8.400	9.500	4.1
	P2-RC-D500	500	42	800	1000	884	450	150	150	2.214	9.000	10.000	4.1

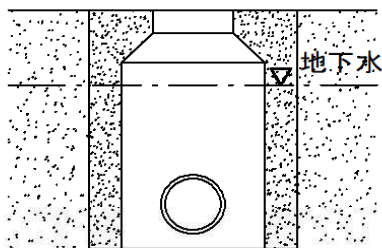
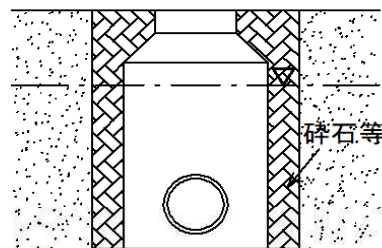
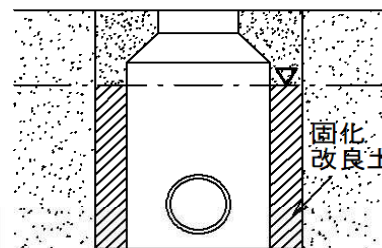
コンクリート360° 固定基礎（鉄筋コンクリート管JSWAS A-1）

記 号	寸 法 表							材 料 表 (10m当たり)			
	D	t	b 1	b 2	h 1	h 2	h 3	コンクリート (m3)	型 枠 (m2)	基礎材 (m2)	管本数 (本)
P3-D200	200	27	460	660	610	460	100	1.609	9.200	6.600	5.0
P3-D250	250	28	520	720	670	520	100	1.969	10.400	7.200	5.0
P3-D300	300	30	560	760	710	560	100	2.118	11.200	7.600	5.0
P3-D350	350	32	620	820	770	620	100	2.498	12.400	8.200	5.0
P3-D400	400	35	780	980	930	780	150	4.349	15.600	9.800	4.1
P3-D450	450	38	840	1040	990	840	150	4.883	16.800	10.400	4.1
P3-D500	500	42	900	1100	1050	900	150	5.421	18.000	11.000	4.1

管基礎工(3)



液状化対策の例

埋戻し方法	① 埋戻し土の締固め	② 砕石等による埋戻し	③ 埋戻し土の固化
概要図	良質土で締固め(締固め度90%程度以上)ながら埋戻す 	透水性の高い材料(砕石等)で地下水位により上方まで埋戻す 	地下水位以深を固化改良土等で埋戻す 
埋戻し材料	良質な砂又は埋戻しに適した現地発生土	透水性の高い材料(例えば、10%通過粒径(D ₁₀)が1mm以上の砕石又は排水効果の確認されている材料)	現地発生土又は購入土に固化材を混ぜた改良土
特徴等	十分な締固めを行うことにより、埋戻し部の過剰間隙水圧を小さくすることができるため、液状化に対する効果は大きい	マンホール・管路近傍部の過剰間隙水圧が消散するため、液状化に対する効果は大きい	埋戻し部が非液状化層となるため、液状化に対する効果は大きい

本町では、施工性及び経済性より、③埋戻し土の固化を標準としているが、現場状況に応じて検討を行い、町の下水道担当部署と協議を行うことを原則とする。

①埋戻し土の締固め

埋戻し部を十分に締め固めることにより埋戻し部の液状化に対するせん断抵抗を高め、液状化の発生及び浮き上がりの被害を防止するものである。
締固め度で90%以上確保する。

②砕石等による埋戻し

透水性の高い砕石等の材料により埋戻しを多量のもので、地震時に生じる過剰間隙水圧を消散させ、液状化の発生及び浮き上がりの被害を防止するものである。

③埋戻し土の固化

埋戻し土に固化剤を添加し固化することにより、液状化の発生を防止するものである。掘削発生土あるいは購入土にセメントやセメント系の固化剤を添加させる。あるいは、掘削発生土に消石灰や焼却灰を添加して固化させるのが一般的である。
現地における一軸圧縮強度の平均値で、50kPa~100kPaを確保する。

マンホール工（1）

1. マンホールの配置

(1)設置箇所

マンホールは、維持管理する上で必要な箇所のほか、管きよの起点及び方向又は勾配が変化する箇所、管きよ径等が変化する箇所、段差が生じる箇所、管きよが会合する箇所に設ける。

(2)設置間隔

管きよの直線部のマンホール最大間隔は、管きよ径によって次表を標準とする。

管きよ径（mm）	600以下	1,000以下	1,500以下	1,500超
最大間隔（m）	75	100	150	200

2. 種類及び構造

標準及び特殊マンホール本体の種類、形状及び構造は次のとおりである。

(1)下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール

呼び方	形状寸法	用 途
円形 0 号マンホール C M 0	内径 75cm 円形	小規模な排水又は起点 他の埋設物の制約等から 1 号マンホールが 設置できない場合
円形 1 号マンホール C M 1	内径 90cm 円形	管の起点及び内径500mm以下の管の中間点 並びに内径400mmまでの管の会合点
円形 2 号マンホール C M 2	内径120cm 円形	内径800mm以下の管の中間点及び内径 500mm以下の管の会合点
円形 3 号マンホール C M 3	内径150cm 円形	内径1,100mm以下の管の中間点及び内径 700mm以下の管の会合点
円形 4 号マンホール C M 4	内径180cm 円形	内径1,200mm以下の管の中間点及び内径 800mm以下の管の会合点
円形 5 号マンホール C M 5	内径220cm 円形	内径1,500mm以下の管の中間点及び内径 1,100mm以下の管の会合点
楕円（方円）マンホール	60×90cm 楕円 （方円）	他の埋設物の制約等から 1 号マンホールが 設置できない場合

注 1．用途欄の内径は、推進工法用鉄筋コンクリート管を接続に使用した場合を設定。

2．用途欄の内径は、流出管と流入管がほぼ同じ高さの場合である。管の段差や角度により形状寸法を設定することもできる。

3．楕円（方円）マンホールは、日本下水道協会の認定工場制度におけるⅡ類資機材に登録された製品である。

(2)下水道用レジンコンクリート製マンホール

呼び方	形状寸法	用 途
円形75（0号）マンホール R M H 7 5	内径 75cm 円形	小規模な排水又は起点 他の埋設物の制約等から 1 号マンホールが 設置できない場合
円形90（1号）マンホール R M H 9 0	内径 90cm 円形	管の起点及び内径500mm以下の管の 中間点並びに内径350mmまでの管の 会合点
円形120（2号）マンホール R M H 1 2 0	内径120cm 円形	内径800mm以下の管の中間点及び内 径500mm以下の管の会合点
円形150（3号）マンホール R M H 1 5 0	内径150cm 円形	内径1,000mm以下の管の中間点及び 内径700mm以下の管の会合点
円形180（4号）マンホール R M H 1 8 0	内径180cm 円形	内径1,100mm以下の管の中間点及び 内径800mm以下の管の会合点
楕円形60×90 R M H 6 0 9 0	楕円 60×90cm	内径300mm以下の管の中間点及び会 合点

注 1．用途欄の内径は、円形レジンマンホールは、推進工法用鉄筋コンクリート管を接続した場合を設定。

2．用途欄の内径は、楕円形レジンマンホールは、鉄筋コンクリート管（外圧管）を接続した場合を設定。

3．用途欄の内径は、流出管と流入管がほぼ同じ高さの場合である。管の段差や角度により形状寸法を設定することもできる。

(3)円形（現場打ち）マンホール

呼び方	標準形状寸法	用 途
1 号マンホール	内径 90cm 円形	管の起点及び内径600mm以下の管の中間点 並びに内径450mmまでの管の会合点 く形きよ、馬てい形きよ及びシールド工法等 による管きよの中間点
2 号マンホール	内径120cm 円形	内径900mm以下の管の中間点及び内径 600mm以下の管の会合点 く形きよ、馬てい形きよ及びシールド工法等 による管きよの中間点
3 号マンホール	内径150cm 円形	内径1,200mm以下の管の中間点及び内径800 mm以下の管の会合点
4 号マンホール	内径180cm 円形	内径1,500mm以下の管の中間点及び内径 900mm以下の管の会合点

注 1．用途欄の内径は、鉄筋コンクリート管を接続に使用した場合を設定。

2．用途欄の内径は、流出管と流入管がほぼ同じ高さの場合である。管の段差や角度により形状寸法を設定することもできる。

【出典：下水道施設計画・設計指針と解説 前編 -2019年版-（公社）日本下水道協会】

マンホール工(2)

(4)く形(現場打ち及び工場製品)マンホール

呼び方	標準形状寸法	用 途
特1号マンホール	内のり 60×90cm 角形	土被りが特に少ない場合、他の埋設物の制約等から円形マンホールが設置できない場合
特2号マンホール	内のり120×120cm 角形	内径1,000mm以下の管の中間点又は最大内径1,000mm(流入角度90°)の会合点 現場状況に応じて円形又はく形を選択する
特3号マンホール	内のり150×120cm 角形	内径1,200mm以下の管の中間点又は最大内径1,000mm(流入角度90°)の会合点 現場状況に応じて円形又はく形を選択する
特4号マンホール	内のり180×120cm 角形	内径1,500mm以下の管の中間点又は最大内径1,000mm(流入角度90°)の会合点 現場状況に応じて円形又はく形を選択する
5号マンホール	内のり210×120cm 角形	内径1,800mm以下の管の中間点又は最大内径1,000mm(流入角度90°)の会合点 現場状況に応じて円形又はく形を選択する
6号マンホール	内のり260×120cm 角形	内径2,200mm以下の管の中間点又は最大内径1,000mm(流入角度90°)の会合点 現場状況に応じて円形又はく形を選択する
7号マンホール	内のり300×120cm 角形	内径2,400mm以下の管の中間点又は最大内径1,000mm(流入角度90°)の会合点 現場状況に応じて円形又はく形を選択する
現場打ち管きよ用マンホール	内のりD1×D2 角形	く形きよ、馬てい形きよ及びシールド工法等による管きよの中間点 雨水吐、マンホールポンプ室

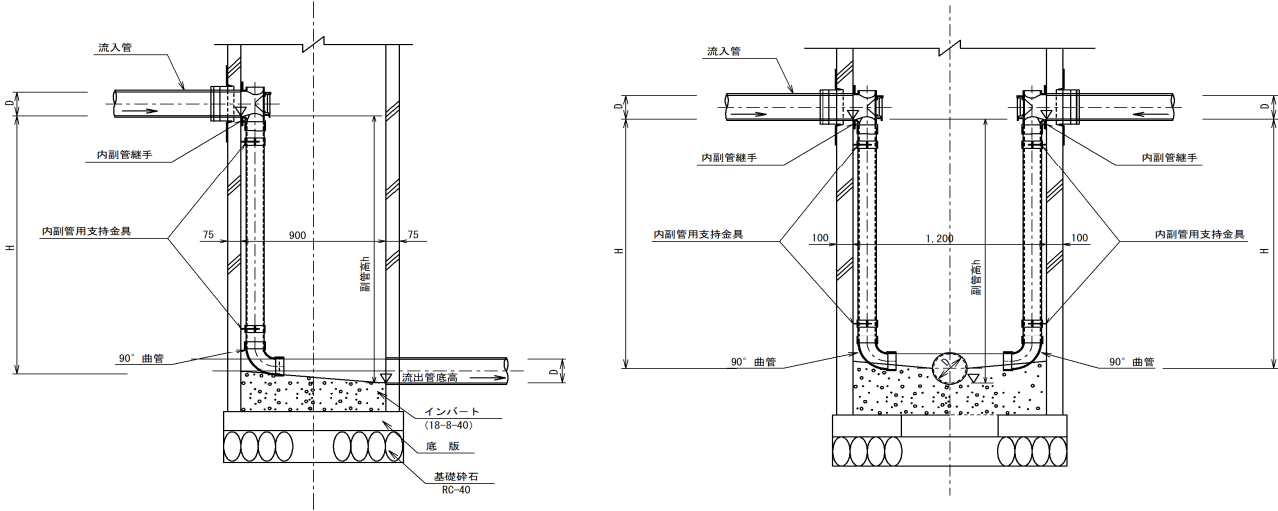
- 注1. 用途欄の内径は、鉄筋コンクリート管を接続に使用した場合を設定。
2. 用途欄の内径は、工場製品の場合、ハンチなどの大きさを考慮して決定する。
3. 会合点では、最大内径未滿の管についてはマンホールの内のり寸法の範囲であれば、流入角度を90°以上にも設置することができる(図4.3.3参照)。
4. 用途欄の内径は、流出管と流入管がほぼ同じ高さの場合である。管の段差や角度により形状寸法を設定することもできる。

3. 副管

副管は、流入管きよと流出管きよとの段差が0.6m以上の場合に設ける。

原則として、内側(マンホール内)に設置する。

本 管 径 (mm)	副 管 径 (mm)	
	分流式 (汚水管路)	合流式
150	100	—
200	150	150
250	200	200
300	200	200
350	200	200
400	200	200
450	250	250
500	別途考慮	250
600	別途考慮	300
700以上	別途考慮	別途考慮



マンホール工(3)

7. 小型マンホール

小型マンホールの維持管理作業は、地上部から器具を使っでの点検や清掃となるため、マンホールの最大深さは2.0mを標準とする。
なお、設置最大間隔は50mとする。

(1)下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール

種 類	形状寸法	用 途
塩じ起点 K T	内径 30cm 円形	内径250mm以下の硬質塩化ビニル管の起点
塩じ屈曲 L (曲り角度)	内径 30cm 円形	内径250mm以下の硬質塩化ビニル管の15°、30°、45°、60°、75°、90°の屈曲点
塩じ合流 Y (合流角度)	内径 30cm 円形	内径200mm以下の硬質塩化ビニル管の45°、90°の会合点
塩じ中間 S T (ストレート)	内径 30cm 円形	内径250mm以下の硬質塩化ビニル管の中間点
塩じ落下 D R (ドロップ)	内径 30cm 円形	内径250mm以下の硬質塩化ビニル管の落差点

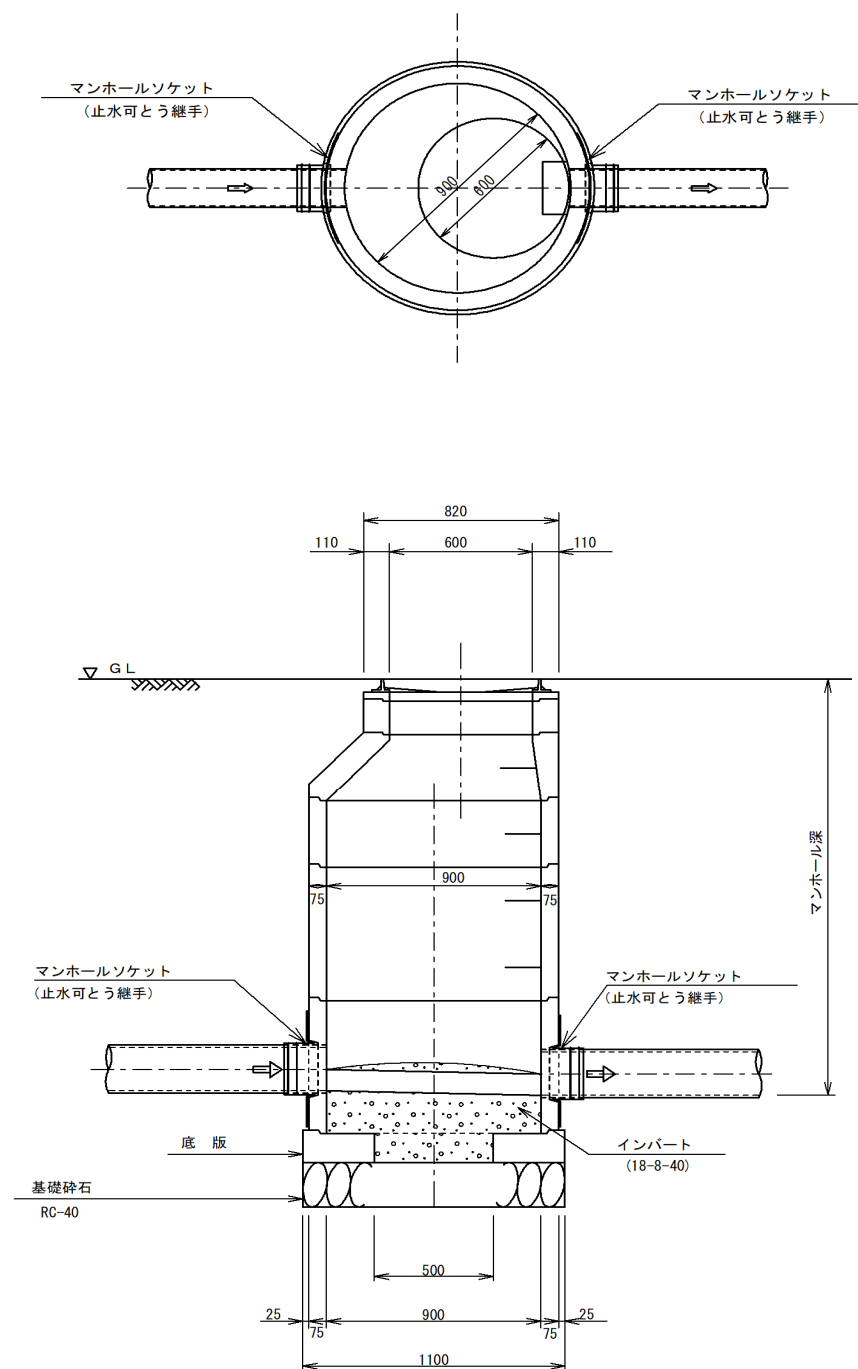
- 注 1. 塩じ屈曲の用途欄の角度は、インバート部の曲り角度を示す。
2. 塩じ合流の用途欄の角度は、インバート部の合流角度を示す。
3. 塩じ合流は、維持管理が困難な場合等は使用を避ける。

(2)下水道用レジンコンクリート製小型マンホール

呼び方	形状寸法	用 途
円形小型30 R M C 30	内径 30cm 円形	内径200mm以下の管の起点及び中間点並びに内径150mmの会合点
円形小型50 R M C 50	内径 50cm 円形	内径250mm以下の管の起点及び中間点並びに内径200mmの会合点
円形小型60 R M C 60	内径 60cm 円形	

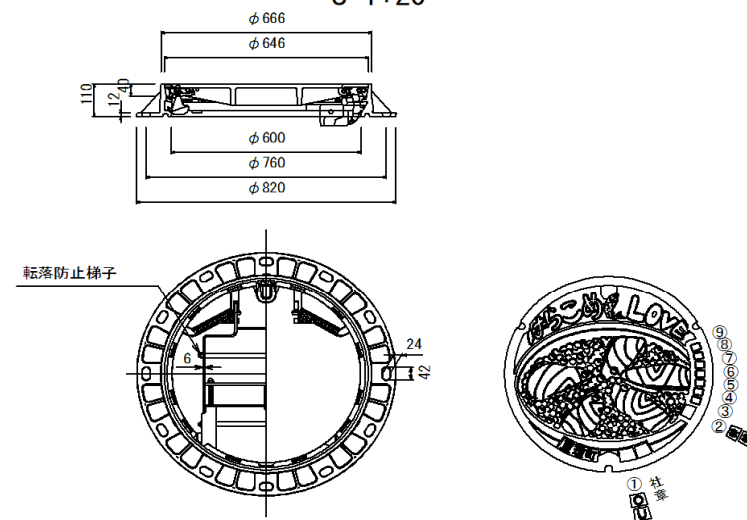
- 注 1. 用途欄の内径は、鉄筋コンクリート管を接続に使用した場合を設定。

マンホール工(4)



鉄蓋及び蓋受け金物

S=1 : 20

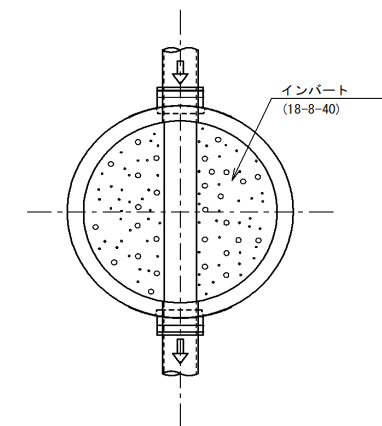


マンホール番号	汚水・雨水	路線番号	設置年度
	①	②③④⑤⑥	⑦⑧⑨
No. ○○-○	○	枝 1 - 0 1	R 0 1
No. □□-□	U	幹 1 1 - 1	R 0 1

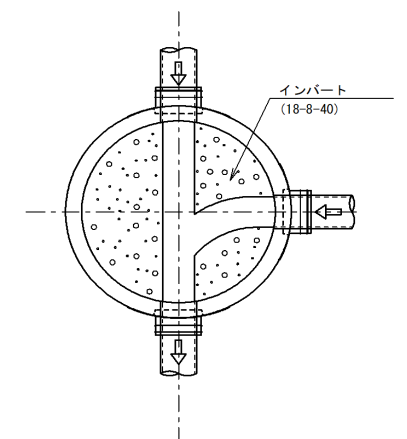
蓋種別	道路種別
T-25	国道・県道・都市計画道路等（車道）
T-14	上記以外の一般道路（車道）・（歩道）

底部工

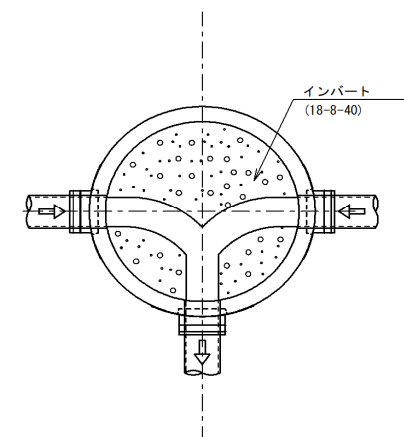
タイプ A



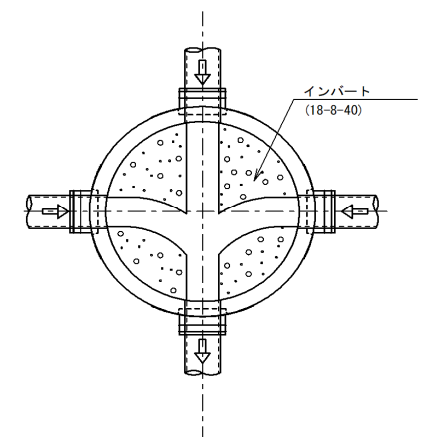
タイプ B



タイプ C

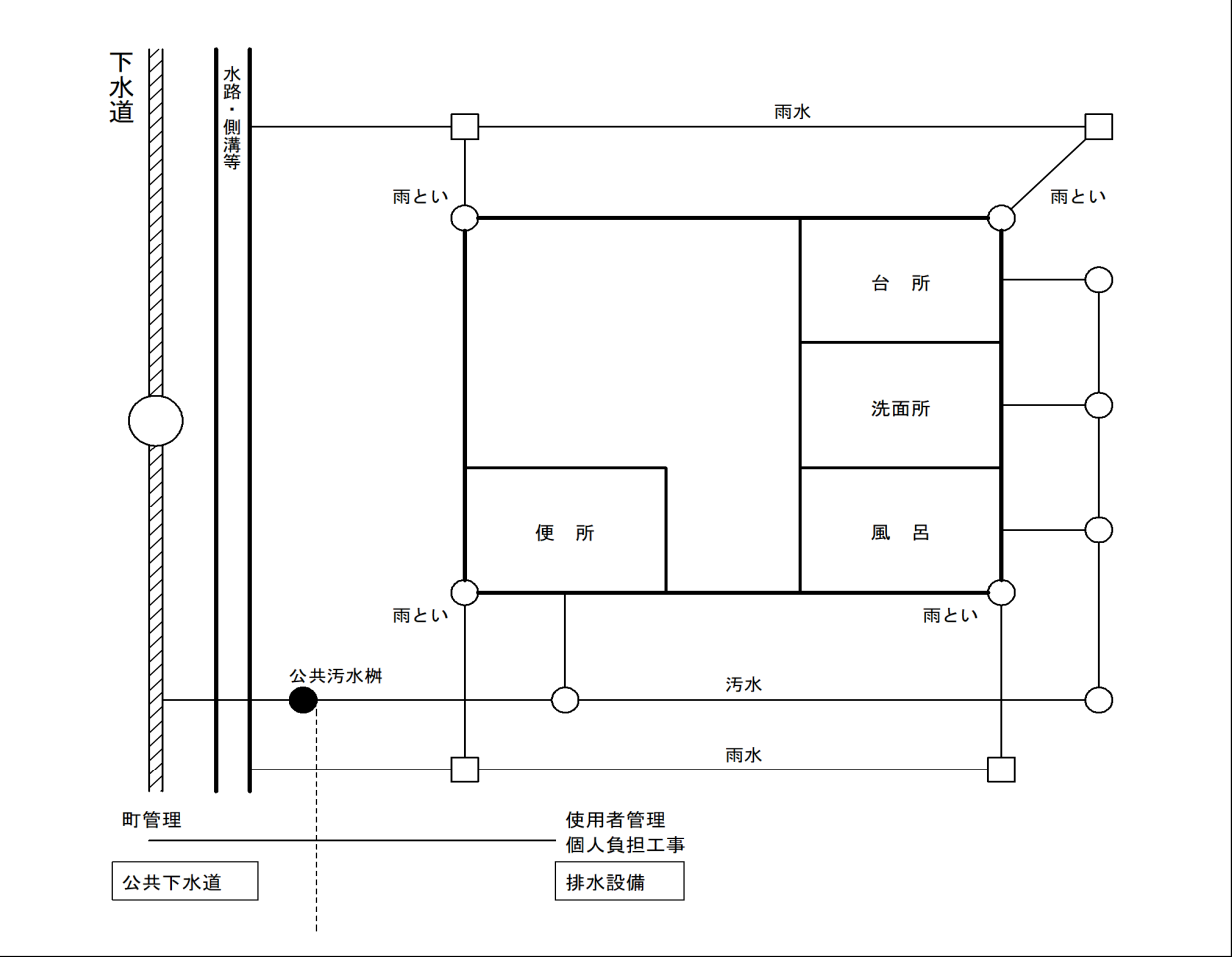


タイプ D



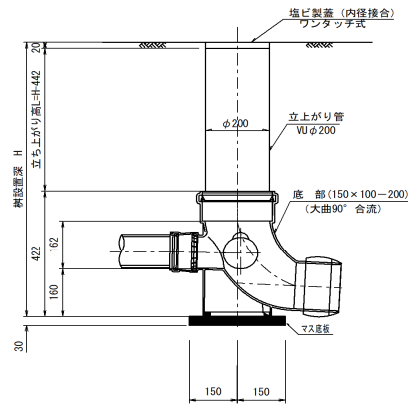
- ※ ステップの位置は原則としてマンホール下流側とする。(ただし、車道の片側に占用を考えた場合等、状況により歩道側の方へステップを取付けることも検討すること。)
- ※ 管渠径600mm以下のマンホールの最大間隔は75mとする。
- ※ マンホール深さが2m以上の場合は、転落防止梯子を設置する。
- ※ 鉄蓋は、汚水(O)、雨水(U)、幹線(幹)、枝線(枝)、路線番号、設置年度を明示する。
- ※ 本資料は、組立1号マンホールに係るものである。
- ※ その他のマンホールについては、標準構造図による。
- ※ マンホール使用部材は、流入・流出管底高、経済性等を総合的に判断し決定する。

汚水樹・取付管

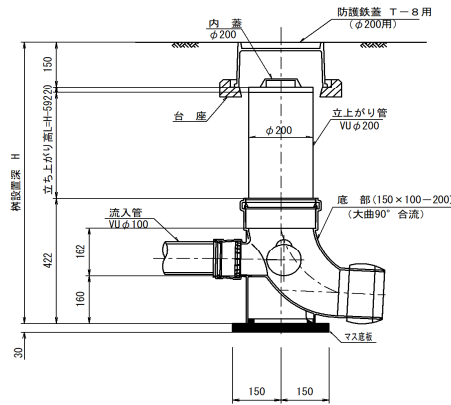


- 特記1：宅内排水設備の設置・構造は、『下水道施設計画・設計指針と解説（（公社）日本下水道協会）』、
『下水道排水設備指針と解説（（公社）日本下水道協会）』および『互理町下水道条例施行規則』の最新版に準拠する。
- 特記2：汚水ますは原則として2cm程度の落差を設ける。
- 特記3：便所からの排水管は、排水主管のますに鋭角に合流するように接続し、必要に応じて段差を設け主管側への汚物等の逆流を防止する。
- 特記4：宅内排水設備（汚水）の最小土被りは20cmとする。
- 特記5：宅内排水設備（汚水）管径は内径100mmを原則とする。
- 特記6：宅内排水設備（汚水）勾配は20‰を原則とする。
- 特記7：宅内排水設備ます（汚水）は、排水管の延長が、その管径の120倍を超えない範囲内において排水管の維持管理上適切な箇所に設置する。
（排水管径が100mmの場合は、『 $100\text{mm} \times 120 = 12,000\text{mm} = 12\text{m}$ 』となる。）
- 特記8：雨水ますの底部には、深さ15cm以上の泥だめを設ける。
- 特記9：上記により難しい場合は、下水道担当部署と協議の上決定する。

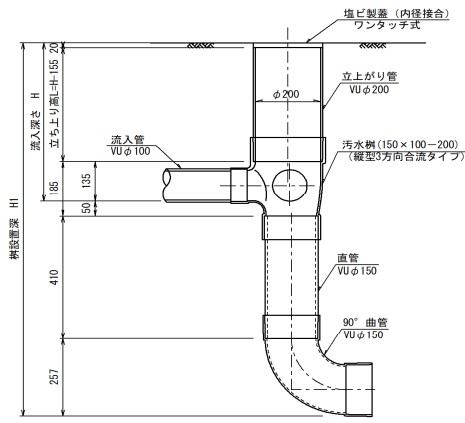
宅内 部



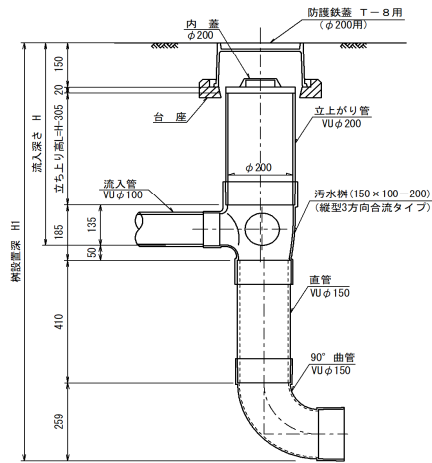
車道 部



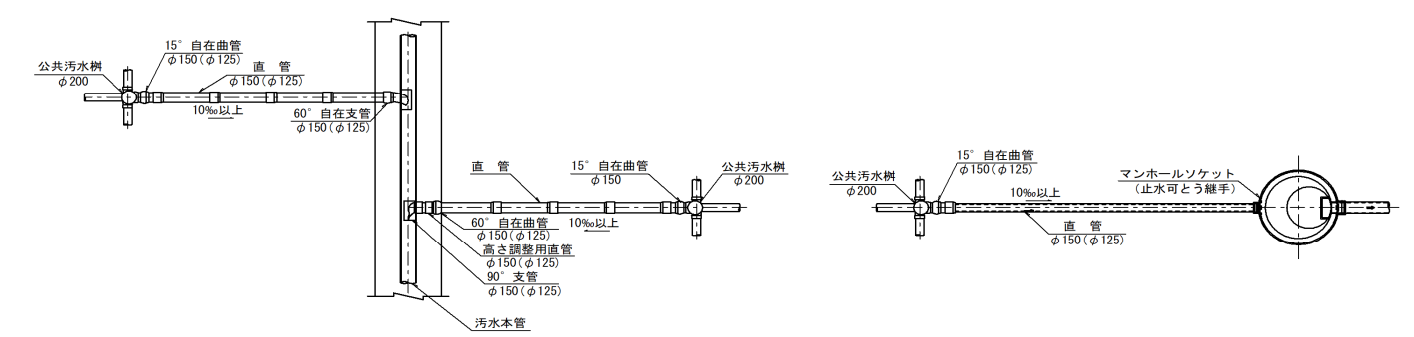
宅内 部



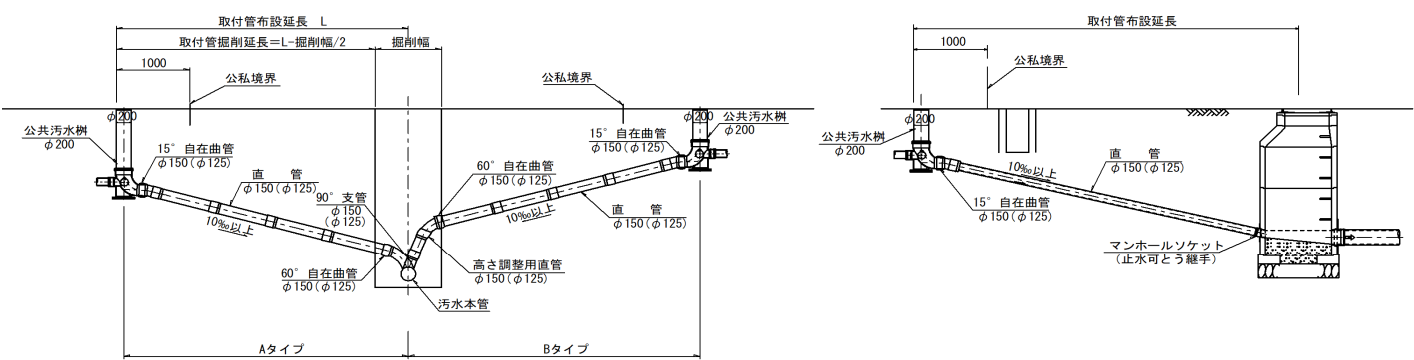
車道 部



平 面 図



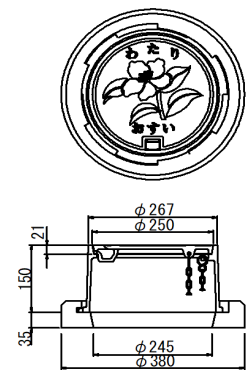
断 面 図



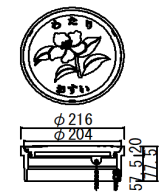
※ 汚水本管がφ150mmの場合、取付管径φ125mmとする。

- 特記1：支管と支管との間隔は1m以上とする。
- 特記2：公共汚水樹設置位置は、公私境界から民地側に公共汚水樹を含めて1m以内とする。
- 特記3：末端管きょにおける最上流部の取付管は、マンホール直接接続とする。
- 特記4：取付管と既存地下埋設物との横断離隔は、原則30cm以上とする。
- 特記5：上記により難しい場合は、下水道担当部署と協議の上決定する。

防護鉄蓋



塩ビ製蓋

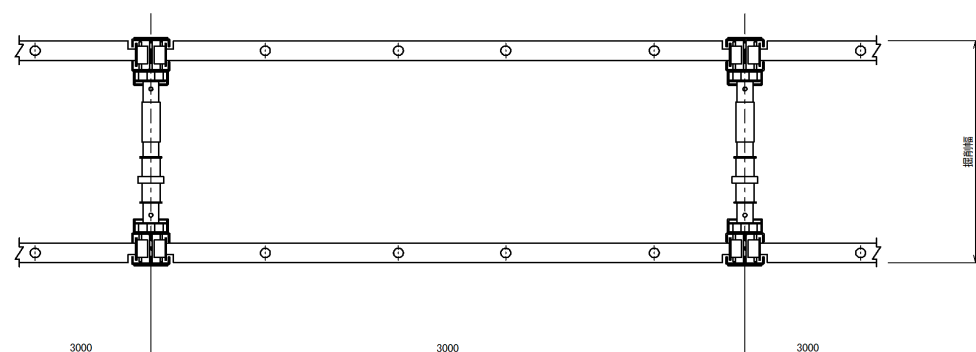


- ※ 現場状況に応じ、公共汚水樹の横型と縦型を適切に選定する。
- ※ 互理町指定の蓋を設置する。
- ※ 疑義が生じた場合は、下水道担当部署と協議の上決定する。

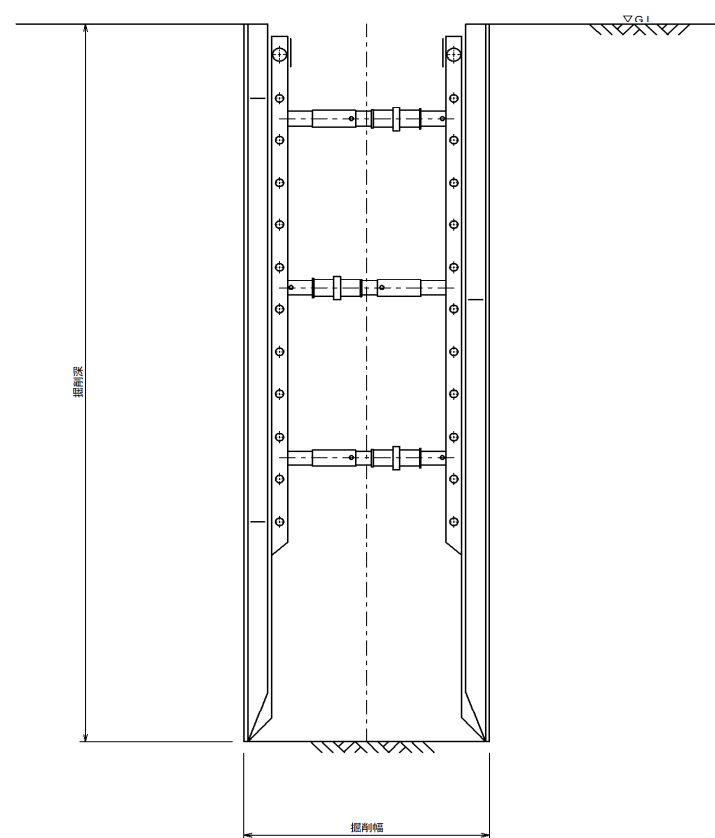
土留工

建込み簡易土留工

平面図



断面図



掘削幅寸法表 (mm)

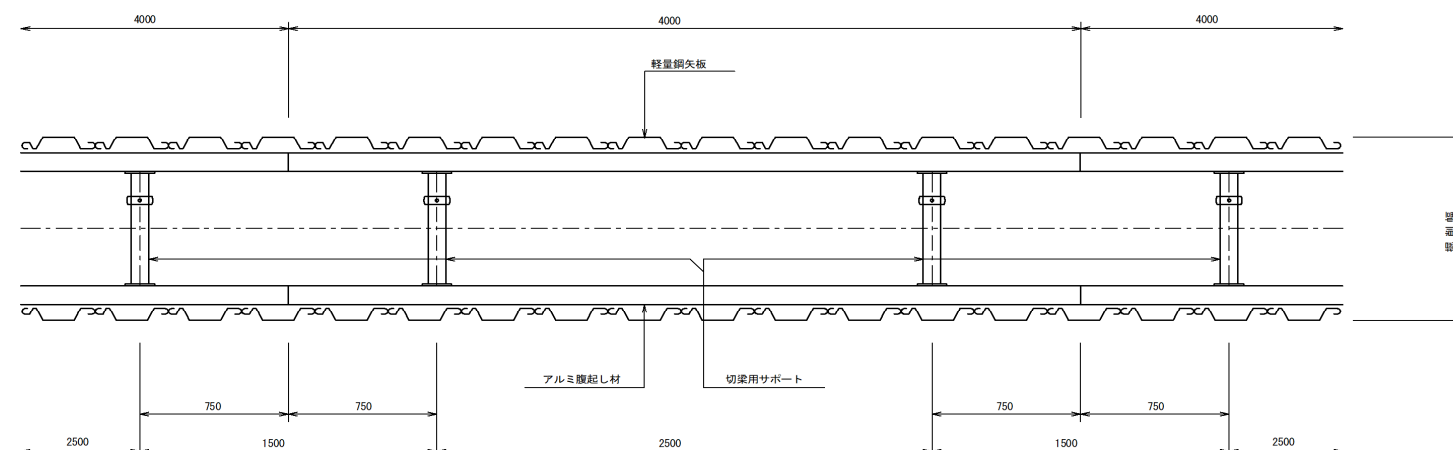
管 種	管 径 (d)	掘 削 深			
		3.0m以下	3.5m以下	4.0m以下	6.0m以下
硬質塩化ビニル管	φ150	900	1050	1150	1400
	φ200	950	1050	1150	1400

プレート厚寸法表 (mm)

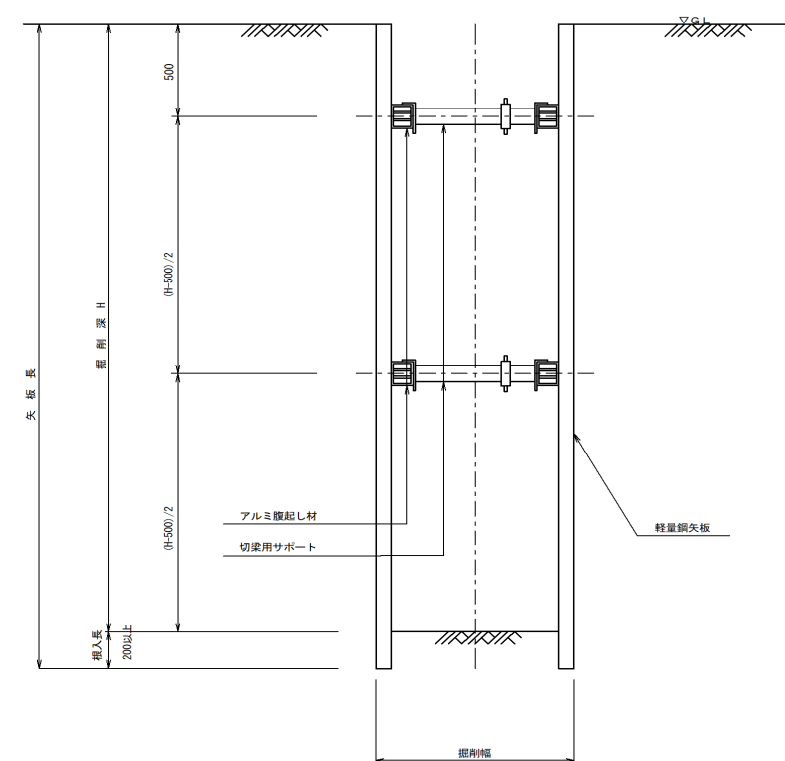
掘 削 深	3.5m以下	3.5mを超え 6.0m以下
プレート厚 (mm)	65	105

軽量鋼矢板土留工

平面図



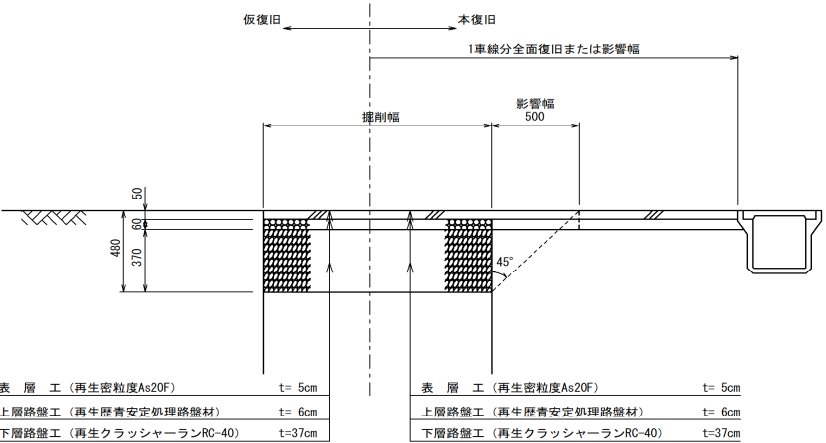
断面図



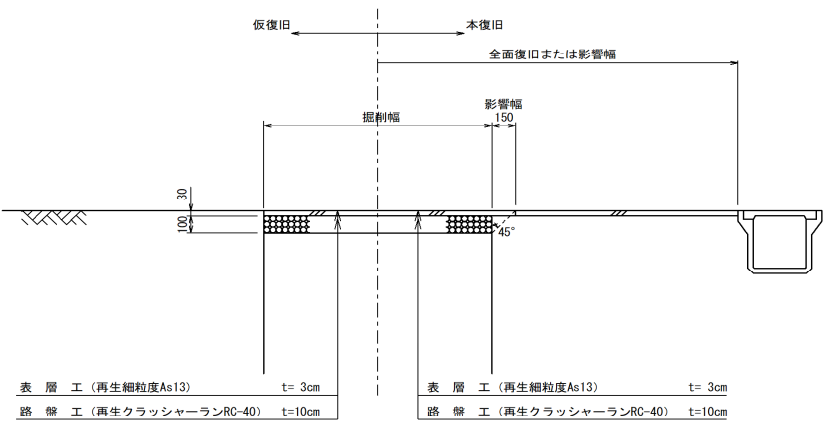
特記1：切梁設置位置は工事個所により計算の上決定すること。
 特記2：支保材は掘削深が2.00m以下は1段、2.00mを超える場合は2段とする。
 特記3：土留工の種類を指定するものではないが、施工性、経済性、安全性等を確認の上、施工すること。
 特記4：土留工は、仮設計算を実施し、その安全性を確認した上で施工すること。

舗装復旧

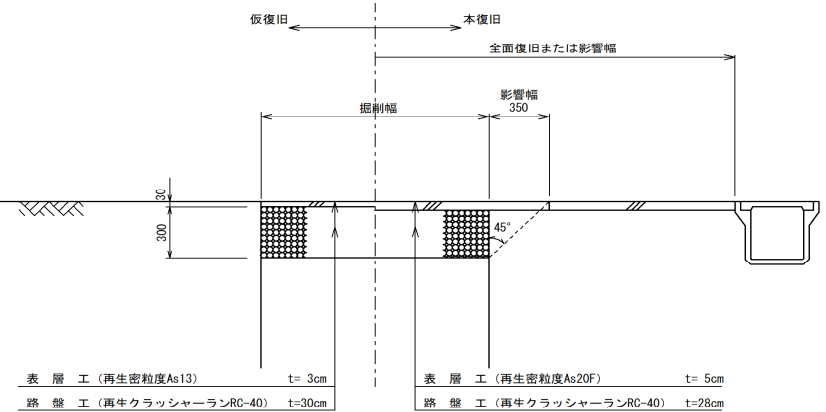
県道（車道部）



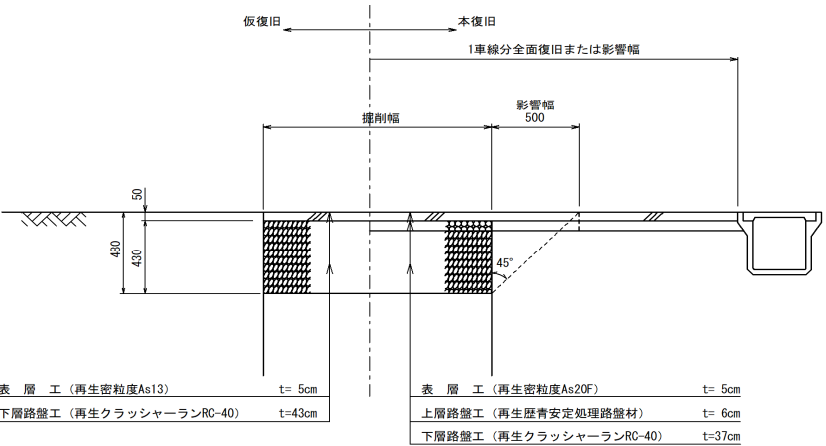
県道（歩道部）



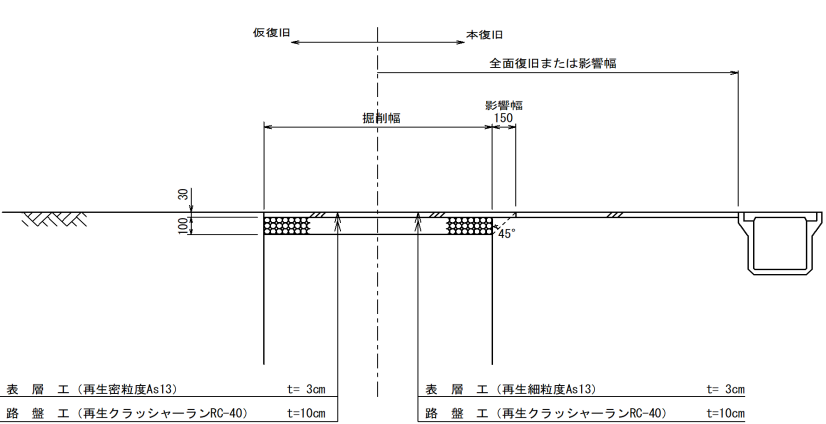
町道Ⅰ（車道部）



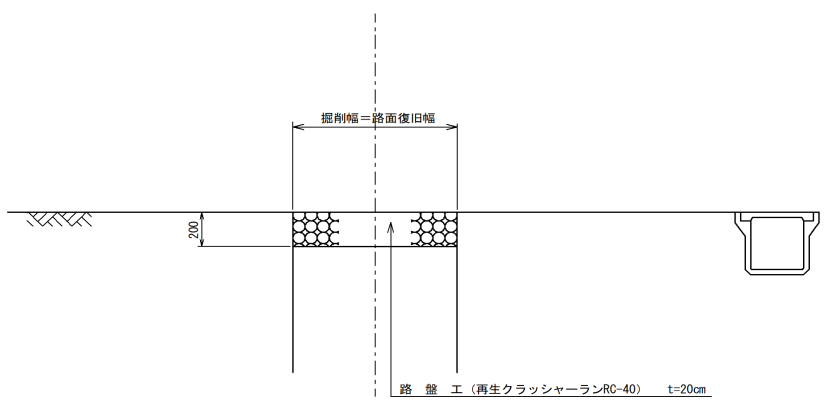
町道Ⅱ（車道部）



町道（歩道部）



町道（砂利道）



特記：復旧断面・復旧範囲は、あらかじめ道路管理者に確認の上、施工すること。

保安施設参考図(1)

保安施設標準様式図				
番号	1	2	3	4
記号	①	②	③	④
名称	標示板（工事予告）	警戒標識	規制標識（311-F）	規制標識速度落とせ看板
様式および標準寸法（単位mm）				
	(1) 高輝度反射式とする。 (2) 転倒しないように留意して設置すること。	(1) 高輝度反射式とする。 (2) 転倒しないように留意して設置すること。	(1) 拡大率1.5倍を標準とするが場所によって1倍または1.3倍を用いることができる。 (2) 夜間は内部照明とする。 (3) 転倒しないように留意して設置すること。	(1) 高輝度反射式とする。 (2) 転倒しないように留意して設置すること。

保安施設標準様式図	
番号	8
記号	⑧
名称	工事中（内部照明型）
標 <	

保安施設標準様式図		
番号	5	6
記号	⑤	⑥
名称	標示板（工事中看板）	保安灯
様式および標準寸法（単位mm）		
	(1) 色彩は、「ご迷惑をおかけします」等の挨拶文「〇〇〇〇工事」等の工事種別については青地に白抜き文字とし、「〇〇をなしています」等の工事内容、工事期間については青色文字。その他の文字及び線は黒色、地は白色とする。 (2) 緑の余白は、2cm緑線の太さは1cm区画線の太さは、0.5cmとする。 (3) 工事期間、時間帯については、交通上支障を与える実際の期間のうち、工事終了日、工事時間帯を標示するものとする。 (4) 「〇〇工事」には「舗装工事」、「共同溝工事」等と記載する。 (5) 高輝度反射式または同等以上のものとする。 (6) 転倒しないように留意して設置すること。 (7) 「ご迷惑をおかけします」は「ご協力をお願いします」に変えてもよい。	(1) 転倒しないように留意して設置すること。

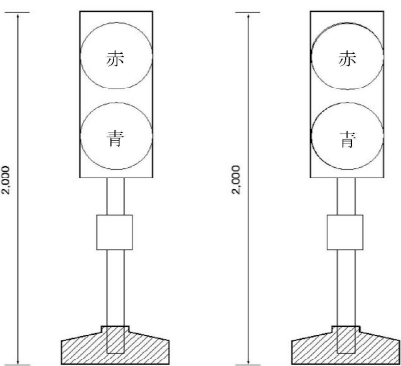
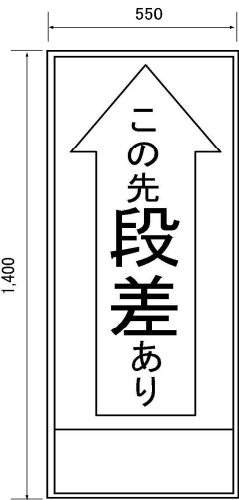
番号	7
記号	⑦
名称	歩道柵
様式および標準寸法（単位mm）	
	(1) 柱およびロープは黒黄の縞をほどこすものとする。 (2) ロープの外径は12mm以上とする。 (3) 柱間隔は約5mとする。 (4) 転倒しないように留意して設置すること。

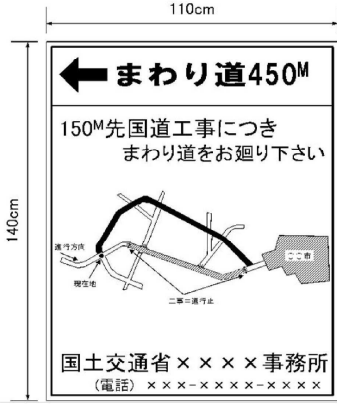
保安施設標準様式図			
番号	9	10	11
記号	⑨	⑩	⑪
名称	車線数減少	片側交互通行	歩行者案内
様式および標準寸法（単位mm）			
	(1) 高輝度反射式とする。 (2) 実際の規制に合わせた図とする。 (3) 転倒しないように留意して設置すること。	(1) 高輝度反射式とする。 (2) 転倒しないように留意して設置すること。	(1) 高輝度反射式とする。 (2) 転倒しないように留意して設置すること。

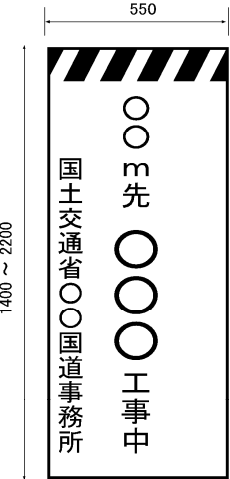
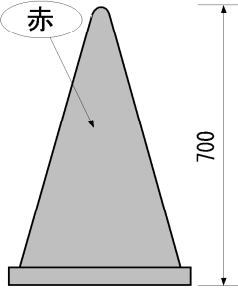
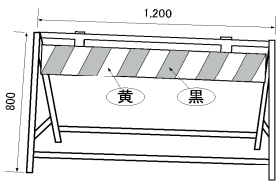
番号	12
記号	⑫
名称	停止位置
様式および標準寸法（単位mm）	
	(1) 高輝度反射式とする。 (2) 路面に停止線を設ける。 (3) 転倒しないように留意して設置すること。

特記：あらかじめ関係機関と協議の上、設置すること。

保安施設参考図(2)

保安施設標準様式図			
番号	13	14	15
記号	⑬	⑭	⑮
名称	信号機	段差予告	段差標示
様式および標準寸法(単位:mm)			
注	(1) 転倒しないように留意して設置すること。	(1) 50mから150m手前に設置する。 (2) 高輝度反射式とする。 (3) 転倒しないように留意して設置すること。	(1) 段差箇所に設置する。 (2) 高輝度反射式とする。 (3) 転倒しないように留意して設置すること。

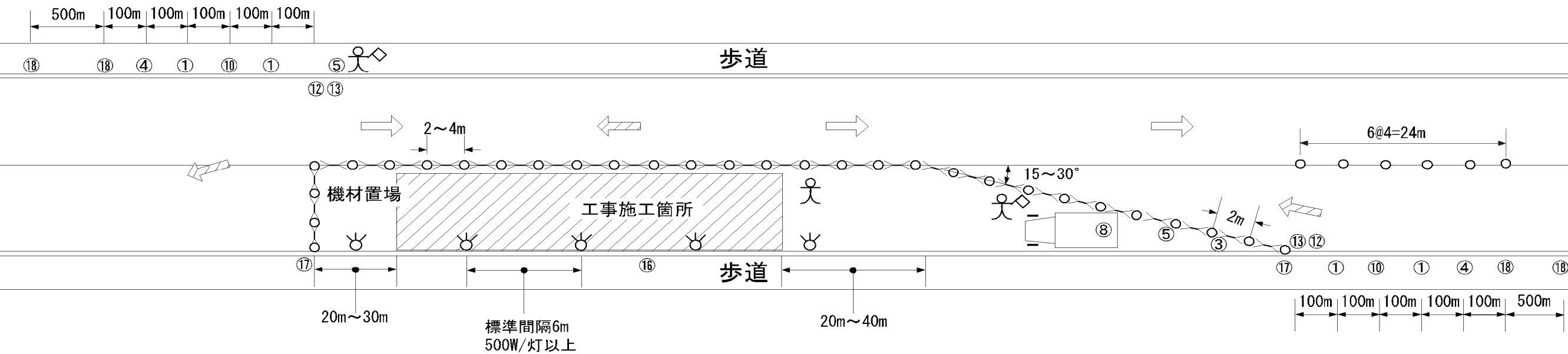
保安施設標準様式図		
番号	22	
記号		
名称	迂回路標示板	
様式および標準寸法(単位:mm)		
注	(1) 色彩は、矢印を赤色、その他の文字及び記号を青色、地を白色とする。 (2) 縁の余白は、2cm縁線の太さは1cm、区画線の太さは0.5cmとする。 (3) 高輝度反射式とする。 (4) 転倒しないように留意して設置すること。	

保安施設標準様式図			
番号	18	19	20
記号	⑱	○	㉔
名称	工事予告看板	カラーコーン	バリケード
様式および標準寸法(単位:mm)			
注	(1) 500mから1000m手前に設置する。 (2) 高輝度反射式とする。 (3) 転倒しないように留意して設置すること。	(1) 夜間は内部照明とする。 (2) 転倒しないように留意して設置すること。	(1) 転倒しないように留意して設置すること。

特記：あらかじめ関係機関と協議の上、設置すること。

保安施設参考図(3)

— 片側交互通行の場合(参考) —



— 通行止めの場合(参考) —

迂回路標示標準図 迂回路標示

市街地の場合

ご迷惑をおかけします
〇〇〇〇〇〇を
なしています
令和〇年〇月〇日まで
時間帯 21:00~6:00
〇〇〇〇工事
発注者 国土交通省〇〇地方整備局
〇〇〇〇事務所〇〇出張所
電話 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇
施工者 〇〇〇〇建設株式会社
電話 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

まわり道450M →
この先国道工事につき
まわり道をお廻り下さい
国土交通省×××事務所
(電話) ×××-××××-××××

地方部の場合

←まわり道450M
150M先国道工事につき
まわり道をお廻り下さい
国土交通省×××事務所
(電話) ×××-××××-××××

ご迷惑をおかけします
〇〇〇〇〇〇を
なしています
令和〇年〇月〇日まで
時間帯 21:00~6:00
〇〇〇〇工事
発注者 国土交通省〇〇地方整備局
〇〇〇〇事務所〇〇出張所
電話 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇
施工者 〇〇〇〇建設株式会社
電話 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

注) 1.迂回路の設定及び交通誘導警備員の配置については、当該警察署と協議すること。

特記1: 当保安施設配置図は、あくまでも参考であり、当該警察署と協議し設置すること。
特記2: 工事現場においては、現場に適した配置を行うとともに、所轄警察署長の指示に従うこと。